

Oracle.1z0-1110-25.v2026-07-30.q59

試験コード : 1z0-1110-25
試験名称 : Oracle Cloud Infrastructure 2025 Data Science Professional
認証ベンダー : Oracle
無料問題の数 : 59
バージョン : v2026-07-30
ページの閲覧量 : 105
問題集の閲覧量 : 630

<https://www.jpnsiken.com/shiken/Oracle.1z0-1110-25.v2026-07-30.q59.html>

質問: 1

Oracle Cloud Infrastructure Data Scienceのどの機能が、機械学習モデルの構築とトレーニングのための対話型コーディング環境を提供しますか？

- A. モデルカタログ
- B. 仕事
- C. ノートブックセッション
- D. プロジェクト

正解: ([正解を表示します](#))

詳細な回答（段階的な解決策）：

- * 目的 :OCIデータサイエンスにおける対話型コーディング環境を特定する。
- * オプションを評価する：
- * A: モデルカタログはモデルを保存するものであり、コーディング用ではありません。
- * B: ジョブは事前に定義されたタスクを実行します。対話型ではありません。
- * C: Notebook Sessions は、コーディングとトレーニングをインタラクティブに行うための JupyterLab を提供します。
- * D: プロジェクトは作業を整理するためのものであり、コーディング環境ではありません。
- * 理由: Notebook Sessions は、OCI の Jupyter ベースの対話型機械学習開発ツールです。

結論 :Cが正解です。

OCI Data Science Notebook Sessionsは、データサイエンティストがコードを記述し、データを探索し、機械学習モデルをトレーニングできるインタラクティブなJupyterLab環境を提供します。」モデルカタログ A)はストレージ用、ジョブ B)は自動化用、プロジェクト D)は組織専用で、Cはインタラクティブ性を提供します。

Oracle Cloud Infrastructureデータサイエンスドキュメント、「ノートブックセッションの概要」。

質問: 2

正誤問題 :バイアスはデータサイエンスの応用においてよくある問題である。

- A. 真
- B. 偽

正解: [\(正解を表示します\)](#)

詳細な回答（段階的な解決策）：

* 目的 : データサイエンスにおいてバイアスが一般的な問題であるかどうかを評価する。

* バイアスの定義 : データ/モデルにおける系統的なエラー（例：偏ったトレーニングデータ）。

* ステートメントの評価:

* バイアスは、代表性のないデータ、不適切な特徴選択、またはアルゴリズムの欠陥から生じるものであり、機械学習において広く認識されている。

* 例：採用モデルにおける性別による偏見、顔認識における人種による偏見。

* 理由：文献と実践（例AIにおける公平性）は、バイアスが蔓延していることを裏付けている。

結論 : A（真が正解です）。

OCI のドキュメントには、「バイアスはデータサイエンスにおける一般的な課題であり、不均衡なデータセットや誤った仮定に起因し、重み付けの再調整や公平性チェックなどの手法が必要となる」と記載されています。これは業界標準と一致しており、バイアスは十分に文書化された問題であるため、A は正しいと言えます。

Oracle Cloud Infrastructure データサイエンスのドキュメント、「モデルにおけるバイアスへの対処」。

質問: 3

Oracle Cloud Infrastructure (OCI) のデータサイエンスパイプライン機能を使用して、複数ステップの機械学習ワークフローを構築したいと考えています。パイプラインステップを実行するために、conda環境をどのように構成すればよいのでしょうか？

A. 計算シェイプを構成する

B. ブロックボリュームを設定する

C. コマンドライン変数を使用する

D. 環境変数を使用する

正解: D ([コメントを发表する](#))

詳細な回答（段階的な解決策）：

* 目的 : パイプラインステップ用にconda環境を設定する。

* オプションを評価する：

* A: Shape-Infra、環境設定ではありません。

* B: ボリュームストレージ、環境ではありません。

* C: コマンドラインステップの引数、環境変数ではありません。

* D: 環境変数 - conda パスの設定 - 正しい。

* 理由: D は実行時環境 (例: CONDA_ENV_SLUG) を指定します。

結論 : Dが正解です。

OCI のドキュメントには、ステップ定義で、環境変数 (D) を使用して、CONDA_ENV_SLUG などのパイプライン ステップの conda 環境を設定します。」と記載されています。A、B、C は他の側面を扱っており、D のみが環境設定に適合します。Oracle Cloud Infrastructure Data Science ドキュメント、「パイプライン ステップ構成」。

質問: 4

OCIシークレットはどこに保存されますか？

- A. OCIオブジェクトストレージ
- B. OCI Vault
- C. 自律型データウェアハウス
- D. Oracleデータベース

正解: **B** ([コメントを发表する](#))

詳細な回答（段階的な解決策）：

- * OCI シークレットの定義: シークレットは、OCI で安全に管理される機密データ (API キー、パスワードなど) です。
- * オプションを評価する：
- * A: オブジェクトストレージは一般的なデータ用であり、機密情報の安全な管理用ではありません。
- * B: Vaultは、OCIが提供する、機密情報を安全に保管および管理するためのサービスです。
- * C: Autonomous Data Warehouseは分析用であり、機密情報の保管用ではありません。
- * D: Oracle Databasesはデータを格納するものであり、OCI固有のシークレットを格納するものではありません。
- * 理由 :Vaultは暗号化とアクセス制御を備えた秘密情報専用に設計されています。

結論 :Bが正解です。

OCI Vaultは、「パスワードやキーなどの機密情報を、保存時の暗号化と詳細なアクセス ポリシーを備えた安全な集中型サービスとして保存および管理します。」オブジェクト ストレージ (A)、自律型データ ウェアハウス (C)、および Oracle データベース (D) は他の目的にのみ使用され、Vault (B) は OCI のセキュリティ アーキテクチャに従って機密情報用に設計されています。

Oracle Cloud Infrastructure Vaultのドキュメント、「シークレット管理」。

質問: 5

機械学習モデルのトレーニングコードを受け取りましたが、トレーニングを実行する最適な形状に関する明確な情報はありません。コストと処理時間のバランスが取れた、モデル トレーニングに最適な計算形状を特定するには、どのように進めればよいでしょうか？

- A. より小さな形状から始め、ジョブ実行メトリクスとモデルトレーニングの完了に必要な時間を監視します。計算形状が完全に利用されていない場合は、モデルパラメータを調整してジョブを再実行します。形状リソースが完全に利用されるまでこのプロセスを繰り返します。

B. 最も強力な計算シェイプのジョブサポートから始め、ジョブ実行メトリクスとモデルトレーニングの完了に必要な時間を監視します。コストが増加しても、可能な限り多くの計算リソースを利用するようにモデルを調整します。

C. より小さな形状から始めて、利用率の指標とモデルトレーニングの完了に必要な時間を監視します。計算形状が完全に利用されている場合は、より多くのリソースを持つ計算形状に変更してジョブを再実行します。処理時間が改善されなくなるまでこのプロセスを繰り返します。

D. ランダムな計算シェイプから開始し、利用率メトリクスとモデルトレーニングの完了に必要な時間を監視します。モデルトレーニングをジョブとして実行する前に、モデルトレーニングの最適化とパフォーマンス テストを事前に実行して、適切な計算シェイプを特定します。

正解: **C** ([コメントを发表する](#))

詳細な回答（段階的な解決策）：

* 目的 :コストと時間を最適化するために、コンピューティング構成を最適化する。

* オプションを評価する：

* A: パラメータの調整 - 形状ではなくモデルに焦点を当てます。

* B: 最も強い形状 - 高価で、バランスが悪い。

* C: 利用時に規模を拡大する - コストと時間のバランスが取れている - 正しい。

* D: ランダムスタート - 非体系的。

* 理由: C言語は利用率に基づいて反復的に最適化を行います。

結論 :Cが正解です。

OCI のドキュメントには、小さな形状から始めて、利用状況と時間 (C) を監視し、完全に利用されている場合は、パフォーマンスが安定するまでスケールアップして、コストと速度を最適化します」と記載されています。A は焦点がずれており、B は過剰支出しており、D は方法が欠けています。C だけが一致しています。

Oracle Cloud Infrastructure データサイエンスのドキュメント、「コンピューティングシェイプの最適化」。

質問: 6

Oracle Resource Manager (ORM) のデータサイエンスサービステンプレートでは、何が自動的に作成されないのでしょうか？

A. 必須ユーザーグループ

B. 動的グループ

C. 個人データサイエンスユーザー

D. 基本的なユースケースに関するポリシー

正解: **C** ([コメントを发表する](#))

詳細な回答（段階的な解決策）：

* ORMテンプレートを理解する :これは、事前定義された構成を使用してOCIデータサイエンスのセットアップを自動化します。

* コンポーネントの評価:

* A: ユーザーグループは、役割に基づいたアクセス制御を自動化するために作成されます。

* B: 動的グループ (ノートブック セッションなど) は自動的に含まれます。

* C: 個々のユーザーはIAM経由で手動で作成する必要があり、自動化はされていません。

* D: 基本的なポリシー (例データサイエンスリソースへのアクセス) は自動的に含まれています。

* 理由 :ORMはユーザーアカウントではなく、インフラストラクチャと権限に焦点を当てています。

結論 :Cは例外である。

データサイエンス用の OCI リソース マネージャー テンプレートは、基本的なユースケースに対して、ユーザー グループ、動的グループ、およびポリシーを自動的にプロビジョニングする」が、個々のユーザーは IAM で個別に作成し、グループに割り当てる必要がある」。ドキュメントによると、C はテンプレートで処理されない唯一の項目である。

Oracle Cloud Infrastructure Resource Managerのドキュメント、データサイエンステンプレート」。

質問: 7

機械学習における特徴量エンジニアリングは何のために使われるのですか？

A. パラメータ調整を実行する

B. 機械学習モデルを解釈する

C. 既存の機能を新しい機能に変換する

D. データセットの特徴を理解するのに役立ちます

正解: C ([コメントを发表する](#))

詳細な回答 (段階的な解決策) :

* 特徴量エンジニアリングの定義 :モデルのパフォーマンスを向上させるために特徴量を作成または変更するプロセスです。

* オプションを評価する :

* A: パラメータチューニングは、モデルのハイパーパラメータ (学習率など) を調整するものであり、特徴量を調整するものではありません。

* B: モデルの解釈 (例SHAP値) は予測を説明するものであり、特徴量の作成を説明するものではありません。

* C: 特徴量の変換 (正規化 エンコーディングなど) は特徴量エンジニアリングの中核である - 正しい。

* D: 特徴の理解は探索の過程で起こるものであり、エンジニアリングの過程で起こるものではない。

* 理由: 特徴量エンジニアリングは、チューニングや解釈とは異なり、データ入力を直接操作します (例: タイムスタンプを曜日に変換する)。

結論 :Cが正確な定義である。

OCIデータサイエンスのドキュメントでは、特徴量エンジニアリングを「生データを、予測モデルにとって根本的な問題をより適切に表現する特徴量に変換するプロセスであり、モデルの精度向上につながる」と定義しています。例としては、Cに準拠したスケーリングや相互作用項の作成などが挙げられます。その他のオプション A、B、D)は、異なる機械学習ステージに関連しています。

Oracle Cloud Infrastructure データサイエンスのドキュメント、「フィーチャーエンジニアリングの概要」。

質問: 8

Apache Sparkで使用されている機械学習ライブラリの名前は何ですか？

- A. MLlib
- B. GraphX
- C. 構造化ストリーミング
- D. HadoopML

正解: ([正解を表示します](#))

詳細な回答（段階的な解決策）：

- * 目的: Apache Sparkの機械学習ライブラリを特定する。
- * Sparkを理解する：専用ライブラリを備えたビッグデータフレームワーク。
- * オプションを評価する：
- * A: MLlib (正しくは MLlib) - Spark の機械学習ライブラリ。
- * B: GraphX - グラフ処理であり、機械学習ではありません。
- * C: 構造化ストリーミング - ストリーミングデータであり、機械学習ではありません。
- * D: HadoopML - Sparkライブラリではありません (Hadoop関連)。
- * 理由: MLlibはSparkの公式MLツールキットです（例：回帰分析クラスタリング）。
- * 結論: Aが正解です（MLlibは MLlibであるべきであることに注意）。

OCI Data Science はデータフローを介して Spark をサポートしており、そこでは MLlib (機械学習ライブラリ) がスケーラブルな機械学習アルゴリズムを提供します」。GraphX (B) と Structured Streaming (C) は別の目的で使用され、HadoopML (D) は実際には存在しません。タイプミスはあるものの、MLlib (A) が標準です。

Oracle Cloud Infrastructureデータフロードキュメント、「Apache Spark MLlib」。

質問: 9

6か月前、あなたはコールセンターの顧客離脱を予測するモデルを作成し、導入しました。当初は質の高い予測結果が得られていましたが、ここ2か月ほど、ユーザーから予測の信頼性について疑問の声が上がっています。精度を検証し、顧客離脱を減らすために、どのような2つの方法を採用しますか？

- A. ドリフト監視
- B. モデルを再デプロイする
- C. 運用監視

D. モデルを再学習させる

E. 最新データを用いてモデルを検証する

正解: A,D ([コメントを发表する](#))

詳細な回答（段階的な解決策）：

* 目的 :モデルのパフォーマンス低下に対処し、顧客離脱予測を改善する。

* 問題の分析：予測精度が低いということは、データドリフトやモデルの陳腐化を示唆しており、これは機械学習における一般的な課題です。

* オプションを評価する：

* A. ドリフト監視: データ分布の変化を追跡し、精度低下の根本原因を特定して修正します。

* B. モデルの再デプロイ: 問題を修正せずにデプロイを繰り返す - それだけでは効果がない。

* C. 運用監視: 予測品質ではなく、システムの状態(遅延など)を追跡します。

* D. モデルを再トレーニングします: 新しいデータでモデルを更新し、精度を直接向上させます。

* E. 最新データで検証する: パフォーマンスをチェックしますが、修正は行いません。診断であって、是正ではありません。

* 推論: A はドリフトを診断し (原因)、D は適応するように再トレーニングします (解決策) - 検証して解約率を下げるための最良の組み合わせです。

結論 :AとDが正解です。

OCIのドキュメントには、「ドリフト監視 A)はモデルのパフォーマンスを低下させるデータ分布の変化を検出し、再トレーニング D)は新しいデータを使用して精度を回復する」と記載されています。再デプロイ B)はドリフトには対応しておらず、運用監視 C)はインフラストラクチャに焦点を当てており、検証 E)はチェックであって修正ではありません。AとDはOCIのモデル保守戦略に合致しています。

Oracle Cloud Infrastructure データサイエンスのドキュメント、「モデルの監視と再トレーニング」。

質問: 10

Oracle Cloud Infrastructure Object Storageにおけるデータの耐久性を向上させるには、どのような2つの方法がありますか？

A. RAID1構成でボリュームを設定する

B. サーバー側暗号化を有効にする

C. バージョン管理を有効にする

D. 削除権限を制限する

E. クライアント側暗号化を有効にする

正解: ([正解を表示します](#))

詳細な回答（段階的な解決策）：

* 目的 :オブジェクトストレージの耐久性を向上させる2つの方法を特定する。

- * 耐久性を理解する :データの損失を防ぐため、冗長性と保護に重点を置きます。
- * オプションを評価する :
- * A: RAID1ブロックボリューム機能であり、オブジェクトストレージではありません。
- * B : 暗号化-データの安全性を確保するが、耐久性は確保しない。
- * C: バージョン管理 - 古いバージョンを保持し、損失を防ぎます - 正しい。
- * D: 削除制限 - 誤削除を防止 - 修正。
- * E: クライアント暗号化 - 安全性を重視しており、耐久性には重点を置いていません。
- * 理由: CとDは、データ損失に対する直接的な保護を提供し、耐久性に重点を置いていません。

結論 :CとDが正解です。

OCI のドキュメントには、「バージョニング (C) を使用して以前のオブジェクト バージョンを保持し、削除権限を制限する (D) ことで偶発的な損失を防ぎ、オブジェクト ストレージの耐久性を向上させます」と記載されています。A は適用されず、B と E はセキュリティのみに焦点を当てており、C と D は OCI のストレージ機能に従って耐久性を向上させます。

Oracle Cloud Infrastructureオブジェクトストレージのドキュメント、「データ永続性オプション」。

質問: 11

あなたは公益事業会社に勤務するデータサイエンティストです。グリッド内のユーティリティリーダーから異常を検出するアルゴリズムを開発しました。モデルアーティファクトのサイズは約2GBで、それをモデルカタログに保存しようとしています。モデルアーティファクトをモデルカタログに保存するために使用できる3つのインターフェースはどれですか？

- A. Oracle Cloud Infrastructure (OCI) コマンドラインインターフェース (CLI)
- B. 高速データサイエンス (ADS) ソフトウェア開発キット (SDK)
- C. ODSC CLI
- D. コンソール
- E. OCI Python SDK
- F. Git CLI

正解: ([正解を表示します](#))

詳細な回答 (段階的な解決策) :

- * 目的 :2GBのモデルをモデルカタログに保存するためのインターフェースを特定する。
- * オプションを評価する :
- * A: OCI CLI - データサイエンスのタスクをサポートします - 可能ですが、主要な機能ではありません。
- * B: ADS SDK - モデルカタログ操作用に設計 - 正しい。
- * C: ODSC CLI - 標準規格ではありません。OCI CLI の誤植の可能性があります。
- * D: カタログアップロード用のコンソールGUIが正しく動作しています。

* E: OCI Python SDK - プログラムによるカタログアクセス - 正しい。
* F: Git CLI のバージョン管理であり、カタログとは関係ありません。
* 理由: B、D、E は OCI の主要なインターフェースです。A も有効ですが、重要度は低いです。
* 結論 :B、D、Eが正解です Aも可能性はありますが、最上位ではありません)。
OCI のドキュメントには、モデルをモデルカタログに保存するための主要な方法として、ADS SDK (B)、OCI Console (D)、および OCI Python SDK (E) が挙げられています。」と記載されています。OCI CLI (A) は機能しますが、強調表示されていません。C は実際には存在せず、F は無関係です。B、D、E が標準的な 3 つの方法です。
Oracle Cloud Infrastructureデータサイエンスドキュメント、モデルカタログインターフェース」。

質問: 12

score.py からの stdout および stderr への呼び出しは、モデルのデプロイメントのどこに記述されますか？

- A. 仮想マシン (VM) 上で定義されたファイル
- B. OCIコンソール
- C. コンソールからアクセスできるOCIクラウドシェル
- D. デプロイメントで定義されているOracle Cloud Infrastructure (OCI) Loggingサービスの予測ログ

正解: D ([コメントを发表する](#))

詳細な回答（段階的な解決策）：

- * 目的: デプロイメント内の score.py からの標準出力/標準エラー出力を特定する。
- * デプロイメントについて理解する: score.py はモデルエンドポイントで実行され、ログはOCIによって管理されます。
- * オプションを評価する：
 - * A: False - デフォルトでは VM ファイルは定義されていません。ログは OCI ログギングに送信されます。
 - * B: False - コンソールにはUIが表示され、生のログは表示されません。
 - * C: False-Cloud Shell は独立したツールであり、ログの保存先ではありません。
 - * D: OCI Logging の True-Predict ログを標準出力/標準エラー出力に記録します。
- * 理由: OCI はデプロイメントのログをログギング サービスに一元管理します。

結論 :Dが正解です。

OCI のドキュメントには、モデルのデプロイ中、score.py からの標準出力と標準エラー出力は、デプロイ設定で構成されているとおり、OCI Logging サービスの予測ログに自動的に送信されます。」と記載されています。A、B、C はこの管理ログ方式と一致しません。D のみが正確です。

Oracle Cloud Infrastructure データサイエンスのドキュメント、モデルのデプロイ - ログギング」。

質問: 13

データ収集と処理のコストを削減するために、モデルをより簡潔にしたいと考えています。そのためには、相関性の高い特徴量を削除する必要があります。削除候補となる特徴量を特定できるよう、相関関係を示すヒートマップを作成したいと考えています。連続変数とカテゴリ変数間の相関関係を表示するのに適した Accelerated Data Science (ADS) SDK メソッドはどれでしょうか？

- A. `corr()`
- B. `correlation_ratio_plot()`
- C. `pearson_plot()`
- D. `cramersv_plot()`

正解: ([正解を表示します](#))

詳細な回答（段階的な解決策）：

- * 目的: ADS SDKを使用して、連続変数とカテゴリ変数間の相関関係を可視化する。
- * 相関関係の種類を理解する：
- * 連続変数対連続変数: ピアソン相関係数。
- * カテゴリ別 vs. カテゴリ別: クレイマーの V。
- * 連続変数とカテゴリ変数: 相関係数イータ。
- * オプションを評価する：
- * A. `corr()`: 一般的な相関 (ピアソン)、混合型には適していません - 誤り。
- * B. `correlation_ratio_plot()`: 連続変数とカテゴリ変数の相関比をプロットします。
- * C. `pearson_plot()`: ADS メソッドではありません。ピアソンは連続のみで正しくありません。
- * D. `cramersv_plot()`: カテゴリカテゴリ不正解のクレイマーの V。
- * 理由: 相関比は連続変数とカテゴリ変数間の関連性を測定するものであり、この混合シナリオにおけるヒートマップに最適です。

結論: Bが正解です。

OCI のドキュメントには、ADS SDK の `correlation_ratio_plot()` メソッド (B) は、連続特徴量とカテゴリ特徴量間の相関比を表示するヒートマップを生成し、相関の高い特徴量を特定して削除するのに適しています。」と記載されています。`corr()` (A) はデフォルトでピアソン相関係数、`pearson_plot()` (C) は実在せず、`cramersv_plot()` (D) はカテゴリペア専用です。B はこのユースケースにおける OCI の ADS 機能と一致しています。

Oracle Cloud Infrastructure ADS SDK ドキュメント、相関可視化手法」。

質問: 14

ある自転車シェアリングプラットフォームは、過去3年間のユーザーの通勤データを収集してきました。収益性を向上させ、有益な推論を行うためには、蓄積されたデータから機械学習モデルを構築する必要があります。モデル構築に必要な機械学習タスクの正しい順序を示しているのは、次のうちどれですか？

- A. データアクセス、特徴探索、データ探索、特徴エンジニアリング、モデリング
- B. データアクセス、データ探索、特徴探索、特徴エンジニアリング、モデリング
- C. データアクセス、データ探索、特徴量エンジニアリング、特徴量探索、モデリング
- D. データアクセス、特徴探索、特徴エンジニアリング、データ探索、モデリング

正解: ([正解を表示します](#))

詳細な回答（段階的な解決策）：

* データアクセス：機械学習ワークフローの最初のステップは、生データへのアクセスです。これには、自転車シェアリングプラットフォームのストレージシステムから、過去3年間に収集されたユーザーの通勤データを取得することが含まれます。

* データ探索：データにアクセスしたら、その構造、品質、パターン（欠損値分布など）を理解するためにデータを探索します。このステップは、必要な前処理を特定するのに役立ちます。

* 特徴量エンジニアリング：データを理解した後、モデルのパフォーマンスを向上させるために、特徴量（例：通勤時間時間帯）を作成または変換します。このステップは、さらに分析するためにエンジニアリングされた特徴量が必要となるため、特徴量探索の前に実施されます。

* 特徴探索：これは、設計された特徴を分析し（相関分析 重要度ランキングなど）、それらを洗練したり、モデリングに最も関連性の高い特徴を選択したりする作業です。

* モデリング：最後に、準備されたデータと特徴量を使用して、機械学習モデルのトレーニングと評価を行います。

オプションC（データアクセス、データ探索、特徴量エンジニアリング、特徴量探索、モデリング）は、この論理的な順序に従い、標準的な機械学習ワークフローに準拠しています。

正しい手順は、OracleのOCIデータサイエンスのドキュメントに記載されている機械学習ライフサイクルを反映しています。データアクセスは、データを取得するための最初のステップであり、続いてデータ探索でデータを評価します（例pandasなどのツールを使用したOCIデータサイエンスノートブックセッション）。特徴エンジニアリングでは、生データを意味のある入力に変換し、続いて特徴探索で特徴の重要性を分析します（例ADS SDKの関連ツールを使用）。モデリングは、モデルを構築してトレーニングする最後のステップです。この手順は、OCIデータサイエンスで機械学習モデルを構築するためのOracleの推奨プラクティスと一致しています（参照Oracle Cloud Infrastructureデータサイエンスサービスドキュメント、機械学習ライフサイクル」）。

質問: 15

あなたは医療関連企業でデータサイエンティストとして働き始めたばかりです。患者の心電図記録に基づいて構築された深層ニューラルネットワークモデルの分析と改善を依頼されました。

構築されたモデルフレームワークに関する詳細情報がありません。モデルカタログ内の機械学習モデルに関する詳細情報を入手する最善の方法は何でしょうか？

A. モデル内のコードを参照してください

B. モデルの分類の詳細を確認してください

C. メタデータタグをチェックする

D. 原産地の詳細を確認してください

正解: ([正解を表示します](#))

詳細な回答（段階的な解決策）：

* コンテキスト分析 :OCI モデルカタログにある既存の深層ニューラルネットワークモデルを、事前情報なしで調査する必要があります。

* モデルカタログを理解する :モデルカタログには、学習済みモデルとメタデータ、ハイパーパラメータ、および来歴（起源と履歴）の詳細が格納されます。

* オプションを評価する：

* A. モデル内のコードを参照してください。モデル成果物（.pkl のようなシリアル化されたファイルなど）には、通常、読み取り可能なソースコードは含まれていません。これはトレーニング済みオブジェクトであり、トレーニングスクリプトではありません。

* B. モデルの分類の詳細を確認します: 分類 (例: 分類 vs. 回帰) は高レベルのカテゴリを提供しますが、フレームワークやアーキテクチャなどの具体的な情報が欠けています。

* C. メタデータタグの確認: メタデータには、名前、説明、タグが含まれ、ある程度のコンテキストは提供されますが、詳細なフレームワーク情報 (例: TensorFlow と PyTorch) は提供されません。

* D. 来歴の詳細を確認する: 来歴は、フレームワーク、トレーニング環境、データソースなど、モデルの作成プロセスを追跡し、最も包括的な洞察を提供します。

* 理由: 来歴の詳細は、「モデル作成の 方法」と「内容」を記録するように設計されているため、最初の引き渡し時に欠落していたフレームワーク (Keras、PyTorch など) やその他の詳細を明らかにするのに最適です。

結論：詳細な調査にはDが最適なアプローチである。

OCI Data Science では、モデルカタログにプロベナンス情報が格納されます。これには、使用されたフレームワーク (TensorFlow、PyTorch など)、トレーニング環境、データセット参照など、モデルの起源に関する詳細が含まれます。これは、ユーザー定義で構造化されていないメタデータタグ (C) や、広範な分類体系 (B) よりも情報量が多いです。モデル成果物 (A) はバイナリファイル (pickle など) であり、読み取り可能なコードベースではありません。プロベナンス (D) は詳細な監査証跡を提供し、このような文書化されていない深層ニューラルネットワークモデルを分析する上で非常に重要です。

Oracle Cloud Infrastructure Data Science ドキュメント、「モデルカタログ - 出所詳細」セクション。

質問: 16

OCIデータラベリングサービスでは、データセットはどのようにエクスポートされますか？

A. バイナリファイルとして

B. XMLファイルとして

C. 行区切りのJSONファイルとして

D. CSVファイルとして

正解: (正解を表示します)

詳細な回答（段階的な解決策）：

- * OCIデータラベリングのエクスポートについて理解する :アノテーション後、データセットは機械学習で使用するためにエクスポートされます。
- * サポートされているフォーマットを確認してください: OCI データ ラベリングは、構造化された機械可読フォーマットで注釈をエクスポートします。
- * オプションを評価する：
 - * A: バイナリは注釈の標準的なエクスポート形式ではありません。
 - * B: XMLは使用されません。柔軟性の点からJSONが推奨されます。
 - * C: 行区切りのJSON形式が正しい形式で、MLワークフローに準拠しています。
 - * D: CSVは一般的ですが、OCIデータラベルのデフォルトではありません。
- * 結論 :Cは公式のエクスポート形式と一致します。

OCIデータラベリングは、注釈付きデータセットを行区切りJSONファイルとしてエクスポートします。このファイルには、各注釈が1行ごとに個別のJSONオブジェクトとして格納され、機械学習パイプラインに適しています。この点はドキュメントに明記されています。

（参照Oracle Cloud Infrastructure Data Labeling Service ドキュメント、データセットのエクスポートJ）

有効的な1z0-1110-25問題集はJPNTTest.com提供され、1z0-1110-25試験に合格することに役に立ちます！JPNTTest.comは今最新1z0-1110-25試験問題集を提供します。JPNTTest.com 1z0-1110-25試験問題集はもう更新されました。ここで1z0-1110-25問題集のテストエンジンを手に入れます。最新版のアクセス、<https://www.jpntest.com/shiken/1z0-1110-25-mondaishu> 160問、30%ディスカウント、特別な割引コード: **JPNshiken**」

質問: 17

ファイルストレージはどのタイプのファイルシステムを使用していますか？

A. NFSv3

B. iSCSI

C. 準仮想化

D. NVMe SSD

正解: A (コメントを発表する)

詳細な回答（段階的な解決策）：

- * 目的 :OCIファイルストレージのファイルシステムの種類を特定する。
- * ファイルストレージについて理解する :OCI のネットワーク接続ストレージ。

* オプションを評価する：

- * A: NFSv3 - ネットワークファイルシステム、ファイルストレージで使用 - 正しい。
- * B: iSCSIブロックストレージプロトコルであり、ファイルストレージではありません。
- * C: 準仮想化モード、ファイルシステムではありません。
- * D: NVMe SSDハードウェアであり、ファイルシステムではありません。
- * 理由 :NFSv3はOCIファイルストレージのプロトコルです。

結論 :Aが正解です。

OCIのドキュメントには、「ファイルストレージは、ファイルシステムプロトコルとして NFSv3 A)を使用し、インスタンス間で共有ストレージを提供します」と記載されています。B、C、Dは無関係であり、AのみがOCIのファイルストレージ設計と一致します。Oracle Cloud Infrastructureのファイルストレージに関するドキュメント、「ファイルシステムプロトコル」。

質問: 18

Oracle Cloud Infrastructureジョブのログに関する記述として正しいのはどれですか？

- A. 各ジョブの実行結果は、そのジョブ専用の単一のログに送信されます。
- B. データサイエンスのジョブリソースとログ記録の統合は必須です
- C. 自動ログ作成が有効になっている場合、すべての標準出力と標準エラー出力は自動的に保存されます。
- D. ジョブとジョブ実行が削除されると、ログは自動的に削除されます

正解: C ([コメントを发表する](#))

詳細な回答（段階的な解決策）：

- * 目的 :OCIジョブのログ記録に関する正しい記述を特定する。
- * ロギングを理解する :ジョブは標準出力/標準エラーをOCIロギングサービスにログ記録できます。
- * オプションを評価する：
- * A: 誤り - 各実行にはそれぞれ独自のログがあり、単一のジョブログはありません。
- * B: 偽ログの記録はオプションであり、必須ではありません。
- * C: True - 有効にすると、標準出力/標準エラー出力が自動的にキャプチャされます。
- * D: 偽ログは明示的に削除しない限り保持されます。
- * 理由 :CはOCIの自動ログ記録機能に合致する。

結論 :Cが正解です。

OCI のドキュメントには、「データ サイエンス ジョブで自動ログ作成が有効になっている場合、すべての標準出力と標準エラー出力がキャプチャされ、OCI ロギング サービスに保存されます。」と記載されています。A は誤り（実行ごとのログ）、B はオプション、D はログ保持のみであることと矛盾しており、C が正確です。

Oracle Cloud Infrastructure データサイエンスのドキュメント、「ジョブのログ記録」。

質問: 19

Oracle Cloud Infrastructureのデータサイエンス職に関する記述のうち、正しいものはどれですか？

- A. ジョブは、オンデマンドでプロセスを実行するためのインフラストラクチャをプロビジョニングします。
- B. ジョブにはカスタマイズできない標準タスクのセットが付属しています
- C. 独自のジョブインフラストラクチャを作成および管理する必要があります。
- D. ジョブを実行するには、単一のシェル/BashまたはPythonアーティファクトを使用する必要があります。

正解: A ([コメントを发表する](#))

詳細な回答（段階的な解決策）：

- * 目的 :OCIのデータサイエンス職に関する正しい記述を特定する。
- * OCIジョブを理解する :ジョブは、管理対象インフラストラクチャ上で機械学習タスク（トレーニングなど）を自動化します。
- * オプションを評価する：
- * A: True-Jobsは、タスク実行のためにOCIコンピューティングリソースをオンデマンドでプロビジョニングします。
- * B: 偽 - ユーザーは、標準タスクに限らず、カスタムタスク（Pythonスクリプトなど）を定義できます。
- * C: False-Infrastructure は OCI によって完全に管理され、ユーザーが管理するものではありません。
- * D: False - 1つのファイルだけでなく、複数の成果物（依存関係を含む ZIP ファイルなど）を使用できます。
- * 理由: A は、ジョブに対する OCI のマネージド オンデマンド プロビジョニング モデルを反映しています。

結論 :Aが正解です。

OCI Data Science のドキュメントには、ジョブは、完全に管理された OCI リソース上で、モデルトレーニングやデータ処理などのユーザー定義タスクを実行するために、オンデマンドでコンピューティング インフラストラクチャをプロビジョニングします。」と記載されています。B は誤りです（カスタマイズは許可されています）。C は管理された性質と矛盾しており、D はアーティファクトの柔軟性を誤って説明しています。ジョブを正確に説明しているのは A のみです。

Oracle Cloud Infrastructure データサイエンスのドキュメント、「ジョブの概要」。

質問: 20

データサイエンスのプロセスにおける最初のステップは何ですか？

- A. データの収集と分析のための準備
- B. さまざまな分析モデルの実験と調整
- C. ビジネス価値を提供する可能性のある分析仮説を定義する
- D. データ所有者との連携

正解: **C** ([コメントを发表する](#))

詳細な回答（段階的な解決策）：

- * 目的 :データサイエンスにおける最初のステップを特定する。
- * プロセスの定義 : 問題の定義から始まり、次にデータとモデリングへと続きます。
- * オプションを評価する :
- * A :データ収集 - 問題定義後の第2段階。
- * B :モデリング - 後期段階。
- * C: 仮説 - 目標を設定し、最初のステップ - 正しい。
- * D: データ所有者とのコラボレーションは、始まりではありません。
- * 推論 : 仮説プロセスを推進する（例 :顧客離脱を予測できるか?」）。

結論 :Cが正解です。

OCIのドキュメントには、「データサイエンスのプロセスは、ビジネス上の問題に対処するための分析仮説を定義することから始まり、続いてデータ収集と分析が行われる」と記載されています。CはA、B、Dに先行しており、OCIの構造化されたアプローチと一致しています。

Oracle Cloud Infrastructureのデータサイエンスに関するドキュメント、「データサイエンスプロセス」。

質問: **21**

あなたは、注釈を付ける必要のあるテキストファイルと画像ファイルのセットを持つデータサイエンティストで、Oracle Cloud Infrastructure (OCI) Data Labeling を使用したいと考えています。このツールでサポートされている注釈クラスは次の3つのうちどれですか？

- A. 物体検出
- B. 固有表現抽出
- C. 分類（単一ラベル／複数ラベル）
- D. キーポイントとランドマーク
- E. 多角形分割
- F. セマンティックセグメンテーション

正解: ([正解を表示します](#))

詳細な回答（段階的な解決策）：

- * 目的 :OCIデータラベリングでサポートされている注釈クラスを特定する。
- * 理解ツール : 機械学習のための画像/テキスト注釈をサポートします。
- * オプションを評価する :
- * A: 物体検出 - はい (バウンディングボックス)。
- * B: 名前付きエンティティ - テキスト固有のものであり、画像にはプライマリではありません。
- * C: 分類 - はい (画像/テキストのラベル)。
- * D: 重要なポイント - OCI ドキュメントには記載されていません。
- * E: 多角形 - 明示的にはサポートされていません。

* F: セマンティックセグメンテーション - はい (ピクセルレベル)。

* 理由 : A、C、FはOCIの画像/テキストの焦点と一致します。

結論 : A、C、Fが正解です。

OCIデータラベリングは、ドキュメントによると 画像とテキストのオブジェクト検出 (A)、分類 (C)、および意味的セグメンテーション (F)」をサポートしています。Bはテキスト固有のものであり、DとEは強調表示されていません。A、C、Fのみがコアクラスです。

Oracle Cloud Infrastructureデータラベル付けドキュメント、 注釈タイプ」。

質問: 22

Oracle Cloud Infrastructure (OCI) Data Science にデータをロードしました。データを変換するために、Accelerated Data Science (ADS) SDK を使用します。ADSDataset オブジェクトに `get_recommendations()` ツールを適用すると、データセットに適用すべき推奨変更すべてについて、ユーザーが検出した問題が表示されました。推奨されるすべての変換を一度に適用するには、どのオプションを使用すればよいでしょうか？

A. `get_transformed_dataset()`

B. `fit_transform()`

C. `auto_transform()`

D. `visualize_transforms()`

正解: C ([コメントを发表する](#))

詳細な回答 (段階的な解決策) :

* 目的: ADS の `get_recommendations()` から推奨されるすべての変換を適用する。

* ADSツールを理解する `get_recommendations()`は修正案 (欠損値など)を提示します。

* オプションを評価する :

* A: 変換されたデータを返します - 適用には適していません - 誤りです。

* B: Sklearn スタイルであり、ADS に特化していない - 誤り。

* C: `auto_transform()` - すべての推奨事項を適用 - 正しい。

* D: 視覚化はするが、適用しない - 不正解。

* 理由: `auto_transform()` は `get_recommendations()` によって提案された修正を実行します。

結論 :Cが正解です。

OCI のドキュメントには、`get_recommendations()` で問題が特定されたら、ADSDataset に対して `auto_transform()` (C) を使用して、推奨されるすべての変換を一度に適用します」と記載されています。A はデータを取得し、B は外部データ、D は視覚化しますが、OCI の ADS 変換ワークフローに合致するのは C だけです。

Oracle Cloud Infrastructure ADS SDK ドキュメント、データ変換メソッド」。

質問: 23

データサイエンティストが一般的に使用する分析手法および統計手法は次のうちどれですか？

- A. 分類
- B. 回帰
- C. クラスタリング
- D. 上記のすべて

正解: ([正解を表示します](#))

詳細な回答（段階的な解決策）：

- * 目的：一般的なデータサイエンスの手法を特定する。
- * テクニックの定義：
- * 分類：カテゴリを予測します（例：スパムかそうでないか）。
- * 回帰分析：連続値（例：売上）を予測します。
- * クラスタリング：データをグループ化します（例：顧客セグメント）。
- * オプションを評価する：
- * A、B、C：すべて標準的な機械学習／統計的手法です。
- * D：広く使われているため、すべて正しい選択肢を包含します。
- * 理由：これらはデータサイエンスのワークフローの基礎となるものです。

結論：Dが正解です。

OCIのドキュメントには、「分類、回帰、クラスタリングはデータサイエンスの中核技術であり、ADS SDKやAutoMLなどのツールによってサポートされている」と記載されています。OCIのMLフレームワークでは、サブセット A、B、C)だけでなく、すべて D)が共通しています。

Oracle Cloud Infrastructure データサイエンスのドキュメント、「分析手法」。

質問: 24

あなたは医療関連企業のデータサイエンティストとして働いています。同社は大量の電子医療記録からパターンを見つけるためにデータ分析を行うことにしました。あなたはJupyterLabノートブックでこれらの記録を分析するためのPySparkソリューションを構築するように依頼されました。Oracle Cloud Infrastructure (OCI) Data ScienceでPySparkアプリケーションを開発する際の推奨手順の順序は何ですか？

- A. Spark conda環境をインストールし、core-site.xmlを設定し、ノートブックセッションを起動し、Accelerated Data Science (ADS) SDKを使用してデータフローアプリケーションを作成し、PySparkアプリケーションを開発します。
- B. core-site.xml を設定し、PySpark conda 環境をインストールし、Accelerated Data Science (ADS) SDK を使用してデータフローアプリケーションを作成し、PySpark アプリケーションを開発し、ノートブックセッションを起動します。
- C. ノートブックセッションを起動し、core-site.xml を設定し、PySpark conda 環境をインストールし、PySpark アプリケーションを開発し、Accelerated Data Science (ADS) SDK を使用してデータフローアプリケーションを作成します。

D. ノートブックセッションを起動し、PySpark conda環境をインストールし、core-site.xmlを設定し、PySparkアプリケーションを開発し、Accelerated Data Science (ADS) SDKを使用してデータフローアプリケーションを作成します。

正解: ([正解を表示します](#))

詳細な回答（段階的な解決策）：

- * 目的 :PySparkアプリケーション開発の手順を順序立てる。
- * 手順:
- * ノートブックを起動します: まず環境をセットアップします。
- * PySpark condaをインストールします。2番目にSparkライブラリを追加します。
- * core-site.xml を設定します: 3番目の接続をデータに渡します。
- * アプリ開発 :Fourthがコードを書く。
- * データフロー：第スケール オプション)。
- * 評価: D (1, 2, 3, 4, 5) はこの論理順序に一致します。
- * 理由 :まずノートブックを作成し、次にセットアップとコーディングを行う。

結論 :Dが正解です。

OCI のドキュメントには、「1) ノートブック セッションを起動し、2) PySpark conda 環境をインストールし、3) core-site.xml を構成し、4) PySpark アプリケーションを開発し、5) 必要に応じてデータ フロー (D) を使用する」と記載されています。他の順序 (A、B、C) ではノートブックの起動が間違っていたり、構成 D が正しいとされています。

Oracle Cloud Infrastructure データサイエンスのドキュメント、PySpark開発」。

質問: **25**

データサイエンティストに関する一般的な格言は何ですか？

- A.** 彼らは時間の80%をデータの収集と準備に費やし、20%をデータの分析に費やします。
- B.** 彼らは時間の80%をデータの分析に費やし、20%をデータの検索と準備に費やします。
- C.** 彼らは時間の80%を失敗した分析プロジェクトに費やし、20%を有益な仕事に費やしています。

正解: ([正解を表示します](#))

詳細な回答（段階的な解決策）：

- * 目的 :データサイエンティストの時間配分に関する広く受け入れられている格言を特定する。
- * データサイエンスのワークフローを理解する :データ収集、準備、分析が含まれ、時間の配分が重要です。
- * オプションを評価する：
- * A: 80%が検索/準備、20%が分析 - データ処理の難しさを反映しています。
- * B: 80%分析、20%発見/準備 - 一般的な認識を逆転させる。
- * C: 80%は失敗したプロジェクト、20%は役に立つ - 悲観的であり、標準的な格言ではありません。

* 理由: 業界のコンセンサス (例: 80/20 ルール) では、実際のデータは扱いにくいいため、データ準備が作業の大部分を占めると強調されています。

結論 :Aが正解です。

OCI のデータサイエンスに関するドキュメントは、業界の標準に準拠しています。生データの複雑さから、データサイエンティストは通常、時間の 80% をデータの検索、クリーニング、準備に費やし、20% を分析とモデリングに費やします。」B はこれを逆転させており、C はサポートされていません。A のみが、Forbes や OCI の実践的なガイダンスなどの情報源から広く引用されているこの格言を反映しています。

Oracle Cloud Infrastructure データサイエンスに関するドキュメント、データサイエンスワークフローの概要」。

質問: 26

スクリプトを必要とせずに機能するOCIデータサイエンスのインタラクション方法はどれですか？

- A. OCIコンソール
- B. CLI
- C. 言語SDK
- D. REST API

正解: ([正解を表示します](#))

詳細な回答（段階的な解決策）：

* 目的 :スクリプト作成を必要としないOCIデータサイエンスのインタラクション方法を特定する。

* 操作方法を理解する: OCI は、データ サイエンス サービスとやり取りするための複数の方法を提供します。GUI ベースのものもあれば、スクリプトベースのものもあります。

* オプションを評価する：

* A. OCI コンソール: Web ベースのグラフィカル インターフェイスで、ユーザーはポイント アンド クリック 操作でリソースを管理できます (ノートブック セッションの作成、モデルのデプロイなど)。スクリプトは不要です。

* B. CLI: コマンドラインインターフェースでは、タスクを実行するためのコマンド (スクリプト) を作成する必要があります (例oci data-science notebook-session create)。

* C. 言語 SDK: ソフトウェア開発キット (例: Python SDK) は、プログラマ的にやり取りするためにコーディングが必要です (例: oci.data_science.DataScienceClient)。

* D. REST API: アプリケーションプログラミングインターフェースでは、スクリプトによる HTTP リクエスト (curl やプログラミング言語の使用など) が必要です。

* 理由 :OCIコンソール A)のみがノーコードでユーザーフレンドリーなインターフェースを提供し、B、C、Dはスクリプトまたはプログラミングに依存しています。

結論 :Aが正解です。スクリプトを作成する必要がなくなるためです。

OCIコンソールは、ドキュメントでは ユーザーがコードやスクリプトを記述することなく、ノートブックセッションやジョブの作成など、OCIデータサイエンスリソースを管理で

きるブラウザベースのインターフェース」と説明されています。これに対し、CLI (B) はコマンドラインスクリプトを必要とし、SDK (C) はプログラミング (Python など) を必要とし、REST API (D) はスクリプトによる API 呼び出しを伴います。コンソールの GUI は、スクリプトを使わずに機能する唯一のオプションとして際立っており、プログラマー以外のユーザーにも使いやすいという Oracle の設計思想に合致しています。

Oracle Cloud Infrastructure データサイエンスのドキュメント、「OCI コンソール入門」セクション。

質問: 27

Oracle Accelerated Data Science (ADS) のどのクラスを使用すると、scikit-learn などの参照ライブラリやインデックス Web サイトからデータセットに簡単にアクセスできますか？

- A. データラベリング
- B. データセットブラウザー
- C. シークレットキーパー
- D. DatasetFactory

正解: D ([コメントを发表する](#))

詳細な回答 (段階的な解決策) :

- * 目的: データセットへのアクセス (例: scikit-learn) のための ADS クラスを特定する。
- * オプションを評価する :
- * A: データラベリング - ADS クラスではありません。
- * B: DatasetBrowser - 存在しません。
- * C: SecretKeeper の認証情報であり、データではありません。
- * D: DatasetFactory - データセットをロードします (例: open()) - 正しいです。
- * 理由 : DatasetFactory はライブラリのデータセットへのアクセスを簡素化します。

結論 : D が正解です。

OCI のドキュメントには、ADS SDK の DatasetFactory (D) は、scikit-learn などのライブラリからデータセットにアクセスします (例:

DatasetFactory.open('sklearn.datasets:load_iris'))」と記載されています。A、B、C は存在しないか、D にのみ適用されます。

Oracle Cloud Infrastructure ADS SDK ドキュメント、DatasetFactory」。

質問: 28

Oracle Cloud Infrastructure (OCI) Data Labeling を使用して一連の画像の分析を完了し、注釈付きデータをエクスポートしたいと考えています。サポートされている形式はどれですか？ (2 つ選択)

- A. CONLL V2003
- B. COCO
- C. データラベリングサービス独自の JSON
- D. スペイシー

正解: ([正解を表示します](#))

詳細な回答（段階的な解決策）：

- * 目的 :OCIデータラベリングのエクスポート形式を特定する。
- * エクスポートについて理解する：注釈付きデータは機械学習で使用するためにエクスポートされます。
- * オプションを評価する：
 - * A: CONLL V2003-Text固有の仕様であり、OCIではサポートされていません。
 - * B: COCO-Standard for image annotations - 正しい。
 - * C: 独自の JSON-OCI のデフォルトのフォーマットが正しい。
 - * D: Spacy-NLP形式はサポートされていません。
- * 理由 :OCIドキュメントによると、BとCはイメージ互換性があります。

結論 :BとCが正解です。

OCIのドキュメントには、「データラベリングは、画像タスク用にCOCO形式 (B)で、サービス固有のJSON形式 (C)でアノテーションをエクスポートします」と記載されています。CONLL (A)とSpacy (D)はテキスト/自然言語処理に特化しており、OCIの画像アノテーションではサポートされていません。

Oracle Cloud Infrastructureのデータラベル付けに関するドキュメント、「エクスポート形式」。

質問: 29

複雑なPythonコードプロジェクトがあり、これは繰り返し実行可能な機械学習モデルのトレーニングタスクであるため、データサイエンスジョブを利用することでメリットが得られる可能性があります。このプロジェクトには多くのサブフォルダとクラスが含まれています。このプロジェクトをジョブとして実行する最適な方法は何ですか？

- A. コードプロジェクトフォルダ全体をZIP圧縮し、ジョブ成果物としてアップロードします。ジョブは、コードが実行されるメインのトップレベルを自動的に識別します。
- B. コードを書き換えて、単一の実行可能なPythonまたはBash/シェルスクリプトファイルになるようにしてください。
- C. コードプロジェクトフォルダ全体をZIP圧縮し、ジョブ作成時にジョブアーティファクトとしてアップロードします。ジョブはメインの実行可能ファイルを自動的に識別します。
- D. コードプロジェクトフォルダ全体をZIP圧縮し、ジョブ作成時にジョブアーティファクトとしてアップロードし、JOB_RUN_ENTRYPOINTをメイン実行可能ファイルを指すように設定します。

正解: ([正解を表示します](#))

詳細な回答（段階的な解決策）：

- * 目的：複雑なPythonプロジェクトをOCIジョブとして実行する。
- * オプションを評価する：
 - * A: 自動識別無効。エン트리ポイントを設定する必要があります。

- * B: 書き換え不要、非効率的。
- * C: 自動実行可能-False明示的なエントリポイントが必要です。
- * D: エントリポイント付きZIP - 正しく柔軟なアプローチ。
- * 理由 :Dは構造を保持し、実行を指定する。

結論 :Dが正解です。

OCI のドキュメントには、複雑なプロジェクトの場合は、フォルダを ZIP 圧縮してジョブ成果物としてアップロードし、JOB_RUN_ENTRYPOINT (D) をメイン実行可能ファイル (例: main.py) に設定してください。」と記載されています。自動検出 (A、C) はサポートされておらず、B は構造を破棄します。D が最適です。

Oracle Cloud Infrastructure データサイエンスのドキュメント、ジョブ成果物」。

質問: 30

あなたは製造会社に勤務するデータサイエンティストです。今後数か月間の売上需要を予測する予測モデルを開発しました。サードパーティライブラリを必要とするカスタムロジックを含むモデル成果物を作成しました。モデルをデプロイしたところ、モデル成果物にすべてのサードパーティ依存関係が含まれていなかったため、実行に失敗しました。不足しているライブラリを含めるには、どのファイルを変更する必要がありますか？

- A. model_artifact_validate.py
- B. score.py
- C. runtime.yaml
- D. requirements.txt

正解: ([正解を表示します](#))

詳細な回答（段階的な解決策）：

- * 目的 :モデル展開に使用するサードパーティライブラリを指定する。
- * アーティファクトを理解する: runtime.yaml はランタイムを定義し、score.py はロジックを処理します。
- * オプションを評価する：
- * A: 標準ファイルではありません - 誤りです。
- * B: 推論コード - 依存関係用ではありません。
- * C: conda env を dependencies-correct で定義します。
- * D: PipリストはOCI condaデプロイメントでは使用されません。
- * 理由: runtime.yaml は、すべてのライブラリを含む conda 環境を指しています。

結論 :Cが正解です。

OCI のドキュメントには、runtime.yaml で、モデルに必要なすべてのサードパーティ ライブラリを含む conda 環境スラッグ (例: ENVIRONMENT_SLUG: custom_env) を指定します。」と記載されています。score.py (B) はロジック用、requirements.txt (D) は OCI 標準ではなく、A は存在しないため、C で問題を修正します。

Oracle Cloud Infrastructure データサイエンスのドキュメント、モデルデプロイメント - runtime.yaml」。

質問: 31

これらのうち、公開されているconda環境の独自の機能はどれですか？

- A. ビジネスユースケースを解決するための包括的な環境を提供します
- B. ネットワークセッションの再アクティブ化に関する可用性を提供します
- C. conda環境をオブジェクトストレージバケットに保存できます
- D. conda環境をブロックボリュームに保存できます

正解: (正解を表示します)

詳細な回答（段階的な解決策）：

* 公開された Conda 環境を理解する: OCI データサイエンスでは、これらはオブジェクトストレージを介してユーザー間で共有されるカスタム conda 環境です。

* オプションを評価する：

* A: 曖昧 - すべての conda 環境はユースケースに対応できます。公開済み」に限ったものではありません。

* B: 再アクティブ化時の不正確な可用性は、セッションの永続性に関するものであり、公開に関するものではありません。

* C: Correct-Publishing は、共有/再利用のために環境をオブジェクトストレージに保存します。

* D: ブロックが正しくないボリュームには、公開環境ではなくセッションデータが保存されます。

* 理由: 公開」環境のユニークな点は、オブジェクトストレージに保存されること (odsc conda publish 経由) であり、チームによるアクセスが可能になります。

* 結論 :Cが特徴的な要素である。

OCIデータサイエンスのドキュメントでは、公開されたconda環境はOCIオブジェクトストレージバケットに保存され、ノートブックセッションやユーザー間で共有できる」と強調されています。これは、CをA（汎用）、B セッション関連）、D ブロックボリュームはセッション状態用であり、公開用ではない」と区別する特徴です。オブジェクトストレージへの公開は、Oracleの設計における決定的な特徴です。

Oracle Cloud Infrastructure Data Science ドキュメント、Conda 環境の管理 - 公開」セッション。

有効的な1z0-1110-25問題集はJPNTTest.com提供され、1z0-1110-25試験に合格することに役に立ちます！JPNTTest.comは今最新1z0-1110-25試験問題集を提供します。JPNTTest.com 1z0-1110-25試験問題集はもう更新されました。ここで1z0-1110-25問題集のテストエンジンを手に入れます。最新版のアクセ

ス、<https://www.jpntest.com/shiken/1z0-1110-25-mondaishu> 160問、30%ディスカウ
ント、特別な割引コード: **JPNshiken**」

質問: 32

あなたは、業務監査に必要なデジタルファイルのコレクションを受け取りました。これらのファイルは複数の異なる形式で構成されており、Oracle Cloud Infrastructure (OCI) データラベリングを使用して注釈を付けたいと考えています。

このツールは、どの3種類のファイルに注釈を付けることができますか？

- A. 会議室での会話の映像
- B. コンピュータサーバーラックの画像
- C. 年間予算の詳細を記したタイプ打ち文書
- D. 事務用品の発注書のコレクション
- E. 電話での会話の音声録音

正解: A,B,C ([コメントを発表する](#))

詳細な回答（段階的な解決策）：

* OCIデータラベリング機能について理解する :OCIデータラベリングは、機械学習用のデータに注釈を付けるように設計されており、画像、テキスト文書、ビデオなどの特定のファイルタイプをサポートしています。

* オプションを評価する：

* A. ビデオ映像：物体検出や動作認識などのタスクでサポートされています。

* B. 画像: 画像分類、物体検出などに対応しています。

* C. タイプされた文書 :エンティティ抽出や分類などのタスクのテキストデータとしてサポートされます。

* D. 発注書 :テキストベースの場合もありますが、フォーマットの明確化（例PDF、画像）がないと曖昧です。OCIはテキスト注釈をサポートしていますが、発注書」は特定のファイルタイプではないため、ここではテキストであると想定します。

* E. 音声録音 :OCIデータラベリングは視覚データとテキストデータに焦点を当てており、音声には対応していないため、サポートされていません。

* 3つ選択してください :A（動画）、B（画像）、C（テキスト文書）は、明示的にサポートされているファイル形式です。

公式ドキュメントによると、OCIデータラベリングは画像、テキスト、ビデオのデータセットへの注釈付けをサポートしています。

動画 A)は物体追跡などのタスクに、画像 B)は分類や検出に、タイプライターで作成された文書 C)はテキストベースの注釈（例：固有表現認識）注釈を付けることができます。音声ファイル E)はサポートされていません。発注書 D)はテキストである可能性がありますが、質問では「タイプライターで作成された文書」の方がより適切なものとして指定されています。（参照Oracle Cloud Infrastructure Data Labeling Service ドキュメント、サポートされているデータタイプ」）。

質問: 33

あなたはOracle AutoMLを使用してモデルを作成するデータサイエンティストであり、モデルのスコア指標を評価しています。多クラス分類モデルを評価するために、以下の一般的な指標のうち、どれを2つ使用しますか？

- A. 平均二乗誤差
- B. 説明分散スコア
- C. リコール
- D. F1スコア
- E. R二乗

正解: C,D ([コメントを发表する](#))

詳細な回答（段階的な解決策）：

* 多クラス分類を理解する：指標は、モデルが複数のクラスをどれだけうまく予測できるかを評価します。

* 指標を評価する：

* A. 平均二乗誤差：回帰分析に使用され、分類には使用されません。

* B. 説明分散スコア：回帰指標であり、不適切です。

* C. リコール：分類のためのクラスキーごとの真陽性率を測定します。

* D. F1スコア：精度と再現率のバランスが取れており、多クラス分類で広く使用されています。

* E. R二乗：回帰分析の指標であり、該当しません。

* 2つ選択してください：リコール (C)とF1スコア (D)は、多クラス分類の標準的な指標です。

Oracle AutoMLは、多クラス分類において、クラスごとのパフォーマンスと全体的な適合率・再現率のバランスを評価する再現率やF1スコアなどの指標をサポートしています。回帰指標 (A、B、E)はここでは関係ありません。(参照Oracle Cloud Infrastructure Data Scienceドキュメント、AutoMLメトリクス)。

質問: 34

機械学習のライフサイクルのどの段階が、データに存在する不均衡を特定するのに役立ちますか？

- A. データモデリング
- B. データモニタリング
- C. データ探索
- D. データアクセス

正解: ([正解を表示します](#))

詳細な回答（段階的な解決策）：

* 目的：データの不均衡（例：偏ったクラス）が特定される段階を見つける。

* 段階を理解する：

* データモデリング：モデルのトレーニング - データは準備済みであることを前提とします。

- * データ監視 : 展開後の追跡 - 初期分析用ではありません。
- * データ探索 : データ特性 (分布など) の分析 - 不均衡の鍵となります。
- * データアクセス : データの取得中 - まだ分析は開始されていません。
- * オプションを評価する :
 - * A: モデリングはデータを使用するが、不均衡を検出するわけではない - 誤り。
 - * B: モニタリングはパフォーマンスを追跡するものであり、初期データの問題を追跡するものではない - 誤り。
 - * C: 探索 (例: pandas を使用) により不均衡が明らかになる - 修正。
 - * D: アクセスは単に取得が不正確です。
- * 理由: 不均衡は探索中に評価されます (例: クラスの人数)。

結論 : Cが正解です。

OCI のドキュメントには、データ探索とは、ADS SDK や Jupyter ノートブックなどのツールを使用して、クラスの不均衡や欠損値を特定するなど、データセットの特性を理解するためにデータセットを分析することです。」と記載されています。モデリング (A) とモニタリング (B) は後から行われ、アクセス (D) は事前分析のみであり、探索 (C) はこの役割に該当します。

Oracle Cloud Infrastructure データサイエンスのドキュメント、データ探索段階」。

質問: 35

OCIデータサイエンスワークスペースでチームメンバーと共同作業を行うにはどうすればよいですか？

- A. ワークスペースインスタンスを他のユーザーと共有することで
- B. 特定のノートブックとファイルへのアクセスを許可することによって
- C. ワークスペース内でチャットとビデオ会議を有効にすることで
- D. ワークスペースに統合されたバージョン管理システムを使用すること

正解: ([正解を表示します](#))

詳細な回答 (段階的な解決策) :

- * 目的 : OCIデータサイエンス (ノートブックセッション) におけるコラボレーション方法を決定する。
- * オプションを評価する :
 - * A: アクセス制御 - 可能だが主要なコラボレーションではない。
 - * B: バージョン管理 (例Git)-コード共有の標準正しい。
 - * C: 共有インスタンス - サポートされていません。セッションはシングルユーザーです。
 - * D: チャット/ビデオ - OCI Data Science の機能ではありません。
- * 理由 : BはチームコラボレーションにGitを活用している。これはOCIが推奨する方法である。

結論 : Bが正解です。

OCIのドキュメントには、Git (B) などのバージョン管理システムをノートブックセッションと統合してコードやノートブックを共有することで、データサイエンスにおけるコラボ

レーションを実現する」と記載されています。Aは制限があり、Cは実現不可能で、Dは利用できません。OCIのコラボレーションアプローチに合致するのはBのみです。
Oracle Cloud Infrastructure データサイエンスのドキュメント、「Git を使用したコラボレーション」。

質問: 36

Oracle AutoML パイプラインは、異なるパラメータを使用してモデルを並列にトレーニングすることで、ハイパーパラメータのチューニングを自動化します。Oracle AutoML のインスタンスを `oracle_automl` として作成し、Oracle AutoML によって実行されたすべての異なる試行を含む出力を取得したいと考えています。次のコマンドのうち、すべての試行の結果を取得するコマンドはどれですか？

- A. `oracle_automl.print_trials()`
- B. `oracle_automl.visualize_tuning_trials()`
- C. `oracle_automl.visualize_adaptive_sampling_trials()`
- D. `oracle_automl.visualize_algorithm_selection_trials()`

正解: ([正解を表示します](#))

詳細な回答（段階的な解決策）：

- * 目的 :AutoMLのトライアル結果をすべて取得する。
- * AutoMLを理解する :トライアルにはハイパーパラメータチューニングの結果が含まれます。
- * オプションを評価する：
- * A: `print_trials()` - すべての試行結果を表示します - 正しい。
- * B: `visualize_tuning_trials()` - チューニングを視覚化しますが、完全なリストではありません。
- * C: `visualize_adaptive_sampling_trials()` - サンプリングに特化しており、すべての試行には適用されません。
- * D: `visualize_algorithm_selection_trials()` - アルゴリズムに固有のもので、すべてのアルゴリズムに適用されるわけではありません。
- * 理由 :Aは包括的な試行結果を提供する。

結論 :Aが正解です。

OCI AutoMLのドキュメントには、「`print_trials()`は、ハイパーパラメータとスコアを含む、実行されたすべての試行の表を出力します」と記載されています。視覚化手法 (B、C、D)は特定の側面に焦点を当てており、Aのみが完全なリストを表示します。
Oracle Cloud Infrastructure AutoML ドキュメント、「試行出力方法」。

質問: 37

Oracle AutoMLを使用して、データセット上で3つの異なるモデルをトレーニングしました。ベースラインモデルを含む各モデルの動作をテストセットで視覚化したいと考えてい

ます。モデルを視覚的に比較するには、Accelerated Data Science (ADS) SDKのどのクラスを使用すればよいでしょうか？

A. 評価指標

B. ADSEvaluator

C. ADSExplainer

D. ADSTuner

正解: ([正解を表示します](#))

詳細な回答（段階的な解決策）：

* 目的 :モデルのパフォーマンス比較を視覚化するためのADS SDKクラスを特定する。

* ADSクラスを理解する :それぞれが特定の機械学習の目的に役立ち、可視化には評価ツールが必要です。

* オプションを評価する：

* A. EvaluationMetrics: おそらくEvaluationsMetricsのスペルミスでしょうか？視覚化のための独立したクラスではありません。

* B. ADSEvaluator: モデルのパフォーマンス (ROC 曲線など) を評価して視覚化するように設計されています - 正しい。

* C. ADSExplainer: モデルの予測 (\$HAPなど) を説明するものであり、比較可視化は行いません。

* D. ADSTuner: ハイパーパラメータを調整するためのもので、視覚化のためのものではありません。

* 理由: ADSEvaluator は、ベースラインを含む複数のモデルの比較プロット (適合率再現率など) を提供します。

結論 :Bが正解です。

OCI のドキュメントには、ADS SDK の ADSEvaluator クラス (B) を使用すると、ベースラインを含むテスト セット上の複数のモデルの ROC 曲線や混同行列などのモデル性能指標を視覚化できます。」と記載されています。EvaluationMetrics (A) はクラスではな

く、ADSExplainer (C) は解釈可能性に重点を置いており、ADSTuner (D) はチューニング専用です。B は OCI の ADS ツールキットの視覚化のニーズに合致しています。

Oracle Cloud Infrastructure ADS SDK ドキュメント、ADSEvaluator クラス」。

質問: 38

どのOCIサービスを利用すれば、クラウド上で機械学習モデルを構築、トレーニング、デプロイできますか？

A. Oracle Cloud Infrastructure データカタログ

B. Oracle Cloud Infrastructure Data Integration

C. Oracle Cloud Infrastructure データサイエンス

D. Oracle Cloud Infrastructure データフロー

正解: ([正解を表示します](#))

詳細な回答（段階的な解決策）：

* 目的：機械学習モデルのライフサイクルに適したOCIサービスを特定する。

* オプションを評価する：

* A: データカタログ - メタデータ管理であり、機械学習ではありません。

* B: データ統合 - ETL、機械学習ではない。

* C: データサイエンス - フルMLライフサイクル - 正しい。

* D: データフロー - Spark 処理であり、完全な機械学習ではありません。

* 理由 :C言語はモデルの構築、トレーニング、デプロイをサポートしています。

結論 :Cが正解です。

OCIのドキュメントには、OCI Data Science (C)は、ノートブックやモデルカタログなど、クラウド上で機械学習モデルを構築、トレーニング、デプロイするためのツールを提供します」と記載されています。A、B、Dは他の用途に使用され、OCIの提供する機能の中で機械学習のライフサイクルに適合するのはCのみです。

Oracle Cloud Infrastructure Data Science ドキュメント、サービス概要」。

質問: 39

あなたは医療関連企業のデータサイエンティストとして働いています。OCI Data Science 上に一連の神経生理学的データがあり、薬剤耐性てんかん患者の発作の原因を予測する畳み込みニューラルネットワーク (CNN) 分類モデルを開発しました。必要なファイルをすべて含むモデルアーティファクトを作成しました。モデルをデプロイしたところ、モデルアーティファクト内で正しい conda 環境を指定していなかったため、実行に失敗しました。正しい conda 環境を使用するための手順はどこに記述すればよいのでしょうか？

A. score.py

B. runtime.yaml

C. requirements.txt

D. model_artifact_validate.py

正解: B ([コメントを發表する](#))

詳細な回答（段階的な解決策）：

* 目的 :OCI モデルのデプロイメントにおいて、conda 環境を指定する場所を特定する。

* モデルデプロイメントを理解する :ランタイム設定を定義するために、score.pyやruntime.yamlなどの成果物が必要です。

* オプションを評価する：

* A. score.py: 推論ロジック (load_model()、predict() など) が含まれています。環境仕様用ではありません。

* B. runtime.yaml: conda環境パスの正しい設定を含む、デプロイメントランタイムを定義します。

* C. requirements.txt: conda環境のOCIでは使用されないpipの依存関係をリストします。

* D. model_artifact_validate.py: 標準アーティファクトではありません。OCI デプロイメントには存在しません。

* 理由: runtime.yaml では conda 環境 (例: slug: pyspark30_p37_cpu_v2) が指定されていますが、これを設定しないとデプロイエラーが発生します。

結論 :Bが正解です。

OCI のドキュメントには、モデル成果物内の runtime.yaml ファイルは、conda 環境パス (例: ENVIRONMENT_SLUG: pyspark30_p37_cpu_v2) を含むランタイム環境を指定し、デプロイされたモデルが正しい依存関係を使用することを保証します。」と記載されています。score.py (A) は推論を処理し、requirements.txt (C) は pip (OCI では conda ではない) 用であり、D は無効です。OCI のデプロイ プロセスに従って conda の問題に対処しているのは B のみです。

Oracle Cloud Infrastructureデータサイエンスのドキュメント、モデルデプロイメント - runtime.yaml」。

質問: 40

多変量データ用のOracle Cloud Infrastructure異常検知モデルを作成します。トレーニングデータはどこに保存する必要がありますか？

- A. あなたのローカルマシン
- B. MySQLデータベース
- C. 自律型データウェアハウス
- D. オブジェクトストレージバケット

正解: ([正解を表示します](#))

詳細な回答（段階的な解決策）：

* OCI異常検知について理解する :このサービスは、多変量データ センサーの読み取り値などの異常を検出するモデルをトレーニングします。そのため、データはOCIのエコシステム内でアクセス可能である必要があります。

* ストレージ要件の評価 :トレーニングデータは、異常検知サービスがプログラムでアクセスできる、拡張性がありOCI互換の場所に保存する必要があります。

* オプションを評価する：

* A. ローカルマシン: ローカルマシン上のデータはアップロードなしでは OCI サービスに直接アクセスできないため、クラウドベースのトレーニングには不向きです。

* B. MySQLデータベース: OCIはMySQLをサポートしていますが、異常検知はトレーニングデータのためにMySQLとネイティブに統合されていません。ファイルベースの入力が推奨されます。

* C. 自律型データウェアハウス: これは分析用のデータベースであり、CSV/JSON ファイルを想定している異常検知トレーニングデータのデフォルトのストレージではありません。

* D. オブジェクトストレージバケット: OCI オブジェクトストレージは、異常検知がトレーニングデータ (CSV ファイルなど) を取り込むために使用する、拡張性と耐久性に優れたストレージサービスです。

* 理由 :オブジェクトストレージはOCIサービスにおける大規模データの標準であり、APIまたはSDKを介して異常検知とのシームレスな統合を提供します。

結論 :Dはサービスのアーキテクチャに合致しているため、正しい選択肢です。

OCI 異常検知サービスでは、トレーニングデータを CSV や JSON などの形式でオブジェクトストレージバケットにアップロードする必要があります。これは公式ドキュメントに明記されており、モデル トレーニング用のデータ アセットを作成する前に「トレーニングデータセットを OCI オブジェクトストレージバケットにアップロードする」必要があると記載されています。ローカルストレージ (A) はクラウド処理には適しておらず、MySQL (B) や Autonomous Data Warehouse (C) などのデータベースは主要な入力としてサポートされていません。オブジェクトストレージ (D) は、多変量異常検知ワークフローに必要な拡張性とアクセス性を提供します。

Oracle Cloud Infrastructureの異常検知に関するドキュメント、「トレーニングデータの準備」セクション。

質問: 41

あなたは、本番環境で定期的に行われるOracle Cloud Infrastructure (OCI) データサイエンスジョブを作成しています。このジョブは、オブジェクトストレージバケットから機密データを取得し、モデルをトレーニングして、モデルカタログに保存します。このジョブの認証メカニズムをどのように設計しますか？

- A. オブジェクトストレージバケットの事前認証リクエスト (PAR) を作成し、それをジョブコードで使います。
- B. ジョブコード内でジョブ実行のリソースプリンシパルを署名者として使し、オブジェクトストレージとモデルカタログへの適切なアクセス権を持つ動的グループがこのジョブ実行に存在するようにします。
- C. 個人のOCI設定ファイルとキーをジョブ成果物にパッケージ化します。
- D. 個人のOCI構成ファイルとキーをVaultに保存し、ジョブ実行リソースプリンシパルを介してVaultにアクセスします。

正解: ([正解を表示します](#))

詳細な回答 (段階的な解決策) :

- * 目的 : 定期的に行われる OCI ジョブを安全に認証する。
- * オプションを評価する :
 - * A: PAR - 期間が限定されており、継続的な仕事には不向きです。
 - * B: リソースプリンシパル - セキュア、ジョブの管理認証 - 正しい。
 - * C: 個人設定 - 拡張性がなく、セキュリティリスクがあります。
 - * D: 個人キーを使用した保管庫 - 複雑で、ユーザーの認証情報を使します。
- * 理由 : BはOCIのネイティブで安全なリソースプリンシパルメカニズムを使します。

結論 : Bが正解です。

OCI のドキュメントには次のように記載されています。機密データにアクセスするジョブの場合は、動的グループ (e.

例えば、resource.type = 'datasciencejobrun') や、オブジェクトストレージとモデルカタログへのアクセスを許可するポリシー - 安全でスケーラブルです。A は一時的なもので、C と D は認証情報の漏洩リスクがあり、B がベストプラクティスです。

Oracle Cloud Infrastructure データサイエンスのドキュメント、ジョブ認証」。

質問: 42

あなたはOracle AutoMLを使用してモデルを作成するデータサイエンティストであり、モデルのスコア指標を評価しています。多クラス分類モデルを評価するために、以下の2つの一般的な指標のうち、どちらを使用しますか？

- A. リコール
- B. 平均二乗誤差
- C. F1スコア
- D. R二乗
- E. 説明分散スコア

正解: **A,C** ([コメントを発表する](#))

詳細な回答（段階的な解決策）：

- * 目的 :AutoMLにおける多クラス分類のための2つの指標を選択する。
- * マルチクラス指標を理解する：回帰ではなく、クラス固有のパフォーマンス分類に焦点を当てる。
- * オプションを評価する：
 - * A. リコール: マルチクラス正解のクラスキーごとの真陽性を測定します。
 - * B. 平均二乗誤差：回帰指標が不適切です。
 - * C. F1 スコア: 精度と再現率のバランス - マルチクラスの標準 - 正解。
 - * D. R二乗値：回帰適合度が不正確。
 - * E. 説明された分散: 回帰指標が不正確です。
- * 理由: AとCは、複数のクラスにわたる分類精度を評価します。これはAutoMLの評価に適合します。

結論 :AとCが正解です。

OCI AutoML のドキュメントには、多クラス分類の場合、一般的な評価指標には、クラスごとの感度を示す再現率 (A) と、バランスの取れたパフォーマンスを示す F1 スコア (C) があります。」と記載されています。B、D、E は回帰に特化したものであり、OCI の AutoML 指標スイートでは A と C のみがサポートされ、関連性があります。

Oracle Cloud Infrastructure AutoML ドキュメント、分類のための評価指標」。

質問: 43

ADS SDK を使用してノートブック セッションからモデルをモデル カタログに保存しようとしており、認証署名者としてリソース プリンシパルを指定していますが、404 認証エラーが発生します。権限が正しく設定されていることを確認するために、確認すべき 2 つの項目はどれですか？

- A. コンパートメント内のノートブック セッションには動的グループマッピング ルールが存在します
- B. モデル成果物はノートブックセッションのブロックボリュームに保存されます

C. 動的グループのポリシーにより、このコンパートメント内のモデルカタログに対する管理権限が付与されます。

D. ネットワーク構成により、サービスゲートウェイを介してOracle Cloud Infrastructure サービスにアクセスできます。

E. ユーザーグループのポリシーにより、このコンパートメント内のモデルカタログに対する管理権限が付与されます。

正解: **A,C** ([コメントを发表する](#))

詳細な回答（段階的な解決策）：

* 目的: リソースプリンシパルを使用して ADS SDK でモデルを保存する際に発生する 404 認証エラーのトラブルシューティング。

* リソースプリンシパルの理解: ノートブックセッションが動的グループとポリシーを介してプリンシパルとして機能できるようにします。ユーザー認証情報は不要です。

* 404 エラーの分析: 認証の失敗を示します。権限の不足またはリソース プリンシパルの設定ミスが原因である可能性があります。

* オプションを評価する：

* A: True-Dynamic グループにはノートブック セッションを含める必要があります (例: resource.type

認証するには `datasciencenotebooksession`」を使用します。

* B: False-Block ポリキュムはアーティファクトをローカルに保存しますが、カタログへの保存はストレージの問題ではなく、権限の問題です。

* C: True-Policy は、カタログへのアクセス権限を dynamic group に manage data-science-models に付与する必要があります。

* D: False-サービスゲートウェイはネットワークアクセスを保証しますが、404エラーは認証に関連するものであり、接続性の問題ではありません。

* E: False - リソースプリンシパルは、ユーザーグループポリシーではなく、動的グループポリシーを使用します。

* 理由: A (グループへの参加) と C (ポリシーの許可) はリソースのプリンシパル認証にとって重要であり、その他は間接的です。

結論 :AとCが正解です。

OCI ドキュメントには次のように記載されています。モデル カタログ操作で ADS SDK とリソース プリンシパルを使用するには、(1) 動的グループに一致するルール (例: all {resource.type

'datasciencenotebooksession'}) および (2) ポリシーにより、動的グループがコンパートメント内でデータサイエンスモデルを管理する権限が付与されます。B は無関係 (ストレージの場所)、D はネットワークに焦点を当てており、E はリソースプリンシパルではなくユーザー認証に適用されます。404 エラーは認証の欠如を示しており、A と C で修正されます。Oracle Cloud Infrastructureデータサイエンスのドキュメント、ADS SDKを使用したりリソースプリンシパルの利用」。

質問: 44

どのステップがAutoMLパイプラインの一部ですか？

- A. 特徴抽出
- B. モデルがモデルカタログに保存されました
- C. モデル展開
- D. 機能選択

正解: ([正解を表示します](#))

詳細な回答（段階的な解決策）：

- * 目的 :OCIのAutoMLパイプラインにおけるステップを特定する。
- * AutoMLを理解する :モデル構築を自動化します。これには、前処理、選択、およびチューニングが含まれます。
- * オプションを評価する：
- * A: 特徴抽出（例PCA）はOCI AutoMLの明示的な一部ではありません。特定性が高すぎます。
- * B: モデルカタログへの保存はAutoML後の処理であり、パイプラインのステップではありません。
- * C: デプロイメントは AutoML の後の別のアクションです - 誤りです。
- * D: 特徴選択（関連する特徴を選択するなど）は、AutoML のコアステップ修正です。
- * 理由: OCI AutoML は、特徴量の選択、アルゴリズムの選択、およびチューニング D の適合を自動化します。

結論 :Dが正解です。

OCI AutoML のパイプラインには、ドキュメントによると「特徴選択、アルゴリズム選択、適応型サンプリング、ハイパーパラメータ調整」が含まれています。抽出 (A) は強調表示されていませんが、保存 (B) とデプロイ (C) は後処理アクションのみです。特徴選択 (D) は不可欠な自動化ステップです。

Oracle Cloud Infrastructure データサイエンスのドキュメント、「AutoMLパイプライン」。

質問: 45

文書からテキストや表を抽出するなど、文書分析タスクを実行するプログラムを作成したい場合、どのOracle AIサービスを使用しますか？

- A. OCI言語
- B. Oracle Digital Assistant
- C. OCIスピーチ
- D. OCIビジョン

正解: ([正解を表示します](#))

詳細な回答（段階的な解決策）：

- * 目的：文書からテキストと表を抽出するためのOCI AIサービスを選択する。
- * オプションを評価する：
- * A: 言語テキスト分析であり、抽出エラーではありません。

- * B: デジタルアシスタント - チャットボット、ドキュメントタスクではない - 誤り。
- * C: 音声の文字起こしであり、文書の文字起こしではありません。誤りです。
- * D: Vision-OCRによるテキスト/表の認識は正しい。
- * 理由 :VisionのOCRは、文書画像からテキストと表を抽出します。

結論 :Dが正解です。

OCIのドキュメントには、OCI Vision (D)はOCRを使用してドキュメントからテキストと表を抽出し、ドキュメント分析タスクをサポートします。」と記載されています。Aは抽出後のテキストを分析し、BとCは無関係です。OCIのAIサービスではDのみが該当します。Oracle Cloud Infrastructure Visionドキュメント、「ドキュメント分析機能」。

質問: 46

あなたは、銀行顧客がローンを滞納するかどうかを予測する機械学習モデルを構築しました。特定の予測を理解するために、ローカル解釈可能モデル非依存型説明 (LIME) を使用したいと考えています。LIMEの背後にある重要な考え方は何ですか？

- A. 機械学習モデルの全体的な挙動は複雑である一方、局所的な挙動はより単純な代理モデルで近似できる場合がある。
- B. モデルに依存しない手法は、モデルの種類に依存する手法よりも解釈しやすい。
- C. 機械学習モデルのグローバルな挙動とローカルな挙動は類似している
- D. 局所的な説明手法はモデルに依存しないが、全体的な説明手法はモデルに依存しない

正解: ([正解を表示します](#))

詳細な回答（段階的な解決策）：

- * 目的 :LIMEの中核となる概念を定義する。
- * LIMEを理解する :ローカルサロゲートモデルを使用して個々の予測を説明します。
- * オプションを評価する：
- * A: 複雑なグローバル、単純なローカル - 正しいLIME原則。
- * B：不可知論-確かにそうだが、重要な考え方ではない。
- * C: グローバル/ローカル類似性 - False。
- * D: ローカル不可知論とグローバル不可知論 - 誤った区別。
- * 理由 :AはLIMEの局所近似に焦点を当てている。

結論 :Aが正解です。

OCI のドキュメントには、「LIME (A) は、特定のインスタンス周辺のより単純なローカル代理モデルで複雑なグローバルモデルを近似することにより、予測を説明します。」と記載されています。B、C、および D は一致していません。A のみが、OCI の解釈ツールによる LIME の基本的アイデアを反映しています。

Oracle Cloud Infrastructure データサイエンスのドキュメント、「モデルの解釈可能性 - LIME」。

有効的な1z0-1110-25問題集はJPNTTest.com提供され、1z0-1110-25試験に合格することに役に立ちます！JPNTTest.comは今最新1z0-1110-25試験問題集を提供します。JPNTTest.com 1z0-1110-25試験問題集はもう更新されました。ここで1z0-1110-25問題集のテストエンジンを手に入れます。最新版のアクセス、<https://www.jpntest.com/shiken/1z0-1110-25-mondaishu> 160問、30%ディスカウント、特別な割引コード: **JPNshiken**」

質問: 47

データ収集と処理のコストを削減するために、モデルをより効率的にしたいと考えています。そのためには、相関性の高い特徴量を削除する必要があります。削除候補となる特徴量を特定できるよう、相関関係を示すヒートマップを作成したいと考えています。連続変数とカテゴリ変数の比較可能性を表示するのに適した Accelerated Data Science (ADS) SDK メソッドはどれですか？

- A. pearson_plot()
- B. cramersv_plot()
- C. correlation_ratio_plot()
- D. corr()

正解: C ([コメントを发表する](#))

詳細な回答（段階的な解決策）：

- * 目的：連続変数とカテゴリ変数間の相関関係を視覚化する。
- * オプションを評価する：
 - * A: Pearson-Continuous 対 continuous-incorrect。
 - * B: クレイマーのV-カテゴリ分類とカテゴリ分類の誤り。
 - * C: 相関比 - 連続変数 vs. カテゴリ変数 - 正しい。
 - * D: 一般的な相関関係 - 混合型に特有のものではありません。
- * 理由: 相関比は、ヒートマップの複数の特徴タイプを処理できます。

結論 :Cが正解です。

OCI のドキュメントには、ADS SDK の correlation_ratio_plot() (C) は、連続型とカテゴリ型のフィーチャ間の相関関係を視覚化し、混合型のヒートマップに最適です。」と記載されています。ピアソン相関係数 (A) とクレイマー相関係数 (B) は型固有の相関関係を示し、corr() (D) は ADS の機能に応じて、C 型の広範な相関関係のみを示します。Oracle Cloud Infrastructure ADS SDK ドキュメント、相関関係の可視化」。

質問: 48

Oracle Cloud Infrastructure (OCI) Vaultを使用して認証情報やその他の機密情報を保存する場合に、暗号化キーをローテーションすることが重要な理由を2つ選択してください。

- A. キーローテーションにより、一度に暗号化できるキーは最大5つまでとなります。
- B. 鍵ローテーションにより暗号化効率が向上する
- C. キーを定期的にローテーションすることで、キーの再利用が容易になります。

- D. 鍵をローテーションすることで、鍵が不正に入手された場合のリスクを軽減できます。
- E. 定期的に鍵をローテーションすることで、1つの鍵バージョンで暗号化できるデータ量を制限します。

正解: ([正解を表示します](#))

詳細な回答（段階的な解決策）：

- * 目的 :OCI Vaultにおけるキーローテーションの2つの理由を特定する。
- * キーローテーションを理解する :キーを更新することでセキュリティを強化します。
- * オプションを評価する：
- * A: 5キー制限-False そのような制限はありません。
- * B: 効率性 - 誤り。目的ではない。
- * C: 再利用無効、回転により再利用ができなくなります。
- * D: リスクを軽減する - 正しい、曝露を制限する - 正しい。
- * E: データ制限 - 正しい、侵害範囲の縮小 - 正しい。
- * 理由 :DとEはセキュリティ重視のキーVaultの利点です。

結論 :DとEが正解です。

OCIのドキュメントには、Vaultにおけるキーローテーションは、D)キーが侵害された場合のリスクを軽減し、E) 単一のキーバージョンで暗号化されるデータを制限することでセキュリティを強化します」と記載されています。A、B、Cはローテーションの目的を誤って表現しており、OCIのVaultのベストプラクティスに合致するのはDとEのみです。

Oracle Cloud Infrastructure Vaultのドキュメント、キーローテーションのメリット」。

質問: 49

データサイエンティストとして、機械学習モデルをトレーニングするためのパイプラインが必要です。パイプラインの実行はいつ開始できますか？

- A. パイプラインは作成後すぐに開始できます。
- B. パイプラインは、パイプライン実行状態中に開始できます。
- C. パイプラインはアクティブ状態後に開始できます。
- D. パイプラインはアクティブ状態になる前に開始できます。

正解: ([正解を表示します](#))

詳細な回答（段階的な解決策）：

- * 目的 :OCIデータサイエンスパイプラインを開始できるタイミングを決定する。
- * パイプラインを理解する :パイプラインとは、定義された手順を持つワークフローであり、必要に応じて、またはスケジュールに基づいて実行されます。
- * オプションを評価する：
- * A: パイプラインは作成後すぐに実行できます。その通りです。
- * B: 「実行状態中」とは、既に実行中であることを示唆しており、論理的ではない。
- * C: 「アクティブ状態後」という表現が不明確です。パイプラインはトリガーされたときに実行されるのであって、状態後ではありません。
- * D: 「アクティブ状態の前」は曖昧です。作成は実行に先行します。

* 理由: パイプラインは作成後に UI/CLI を介して実行可能であり、最も単純な解釈は A です。

結論 :Aが正解です。

OCI Data Science のドキュメントには、パイプラインが作成された後、OCI コンソール、CLI、または SDK を使用して、パイプラインの実行をすぐに開始するか、スケジュールすることができます。」と記載されています。B、C、および D はこれと一致しません。実行は作成後 (A) に開始され、曖昧な状態の間または後に開始されるわけではありません。Oracle Cloud Infrastructure データサイエンスのドキュメント、パイプライン - パイプラインの実行」。

質問: 50

Oracle Cloud Infrastructure (OCI) Anomaly Detection を使用して、ポンプセンサーデータの異常を検出するモデルをトレーニングしています。必要な誤警報確率の設定は、異常検出モデルにどのような影響を与えますか？

- A. 誤報の報告を無効にするために使用されます。
- B. 異常検出に対するモデルの感度を変更します
- C. エラーメッセージが生成されるまでの間に発生する誤報の回数を決定します。
- D. 各信号にスコアを追加し、誤報である確率を示します。

正解: ([正解を表示します](#))

詳細な回答（段階的な解決策）：

- * 目的 :OCI異常検知における誤報確率 (FAP)の影響を理解する。
- * FAPを理解する：異常フラグ付けの偽陽性率の閾値を制御します。
- * オプションを評価する：
- * A: レポートを無効にする - 誤りです。FAP は感度を設定するもので、オン/オフを設定するものではありません。
- * B: 感度の変化 - 正しい。FAPが低いほど偽陽性が少なくなる - 正しい。
- * C: カウントベースのエラー - 不正解です。カウンターではありません。
- * D: 信号ごとのスコア - 不正解。FAP はグローバル設定です。
- * 理由 :FAPは検出閾値を調整するため、感度に直接影響します。

結論 :Bが正解です。

OCIのドキュメントには、誤警報確率 (FAP) Bは異常検知におけるモデルの感度を調整します。値が低いほど特異度が高くなり、誤検知が減少します。」と記載されています。A、C、DはFAPの役割を誤解しており、OCIの異常検知の調整と一致するのはBのみです。

Oracle Cloud Infrastructureの異常検知に関するドキュメント、FAP設定」。

質問: 51

ローン申請用のバイナリ分類器をトレーニングし、このモデルをモデルカタログに保存しました。同僚がこのモデルを検証したいと考えており、モデルを同僚と共有する必要があります。モデルカタログから、どのモデルアーティファクトを共有できますか？

- A. メタデータ、ハイパーパラメータ、メトリクスのみ
- B. モデルのメタデータとハイパーパラメータのみ
- C. モデルと指標のみ
- D. モデル、モデルメタデータ、ハイパーパラメータ、メトリクス

正解: ([正解を表示します](#))

詳細な回答（段階的な解決策）：

* モデルカタログを理解する :OCI モデルカタログには、学習済みモデルと関連する詳細情報が格納されます。

* 共有可能な成果物を特定する: 共有時には、モデルファイル、メタデータ（名前説明など）、ハイパーパラメータ（学習率など）、メトリクス（精度など）といったすべてのコンポーネントにアクセスできます。

* オプションを評価する：

* A: モデル自体を除外している - 誤り。

* B: メトリクスが不正確であることを除外します。

* C: メタデータとハイパーパラメータが除外されています - 不正確です。

* D: すべての構成要素が含まれています - 正しいです。

結論 :Dは包括的かつ正確である。

OCIモデルカタログを使用すると、モデル成果物（学習済みモデル）、メタデータ、ハイパーパラメータ、およびパフォーマンスメトリクスを共有できるため、同僚による詳細な検証が可能になります。詳細については、公式ドキュメントを参照してください。（参照Oracle Cloud Infrastructureデータサイエンスドキュメント、モデルカタログの概要」）。

質問: 52

Oracle AutoMLを使用して、サポートされているモデルクラスのハイパーパラメータを調整し、時間予算を指定しています。AutoMLは、時間予算が尽きると計算を終了します。ハイパーパラメータの調整が完了する前に時間予算が尽きた場合、AutoMLはどのような結果を返すと予想されますか？

- A. 現在最もよく知られているハイパーパラメータ構成
- B. 最後に生成されたハイパーパラメータ構成
- C. 最小学習率を持つハイパーパラメータ構成
- D. ランダムなハイパーパラメータ構成

正解: ([正解を表示します](#))

詳細な回答（段階的な解決策）：

* 目的 :チューニング中に時間切れになった場合のAutoMLの出力を予測する。

* AutoMLチューニングを理解する :ハイパーパラメータを繰り返しテストし、最良の結果を追跡します。

* オプションを評価する：

* A: 最もよく知られている構成 - 論理的、最適化目標を反映している - 正しい。

* B: 最後の設定 - 以前のより良い結果を無視 - 誤り。

* C: 最小学習率 - 任意であり、パフォーマンスに基づくものではありません。

* D: ランダム敗北調整目的。

* 理由 :AutoMLは、予算内で見つかった最適な構成を優先します。

結論 :Aが正解です。

OCI AutoMLのドキュメントには、時間制限が経過した場合、AutoMLはパフォーマンス指標に基づいてチューニング中に特定された最適なハイパーパラメータ構成 A)を返します。」と記載されています。最後の構成 B)、最小構成 C)、またはランダム構成 D)は選択されず、AのみがOCIの最適化戦略に合致しています。

Oracle Cloud Infrastructure AutoML ドキュメント、「ハイパーパラメータチューニング - 時間予算」。

質問: 53

決して信用せず、常に検証せよ」という原則に基づいているアーキテクチャはどれですか？

A. フェデレーテッドID

B. ゼロトラスト

C. 流体周長

D. 多層防御

正解: ([正解を表示します](#))

詳細な回答（段階的な解決策）：

* 目的：決して信用せず、常に検証する」という原則に基づいたアーキテクチャを特定する。

* オプションを評価する：

* A: フェデレーションID共有認証であり、検証に重点を置くものではありません。

* B: ゼロトラスト - 明示的に 決して信頼せず、常に検証する」 - 正しい。

* C: 流体周辺適応型であり、コア原理ではない。

* D: 多層防御 - 検証中心ではなく、階層化された防御。

* 理由 :ゼロトラストは、明示された原則に完全に合致する。

結論 :Bが正解です。

OCIのドキュメントには、ゼロトラスト B)アーキテクチャは 決して信頼せず、常に検証する』という原則に基づいて動作し、継続的な認証と認可を必要とする」と記載されています。A、C、Dはそれぞれ異なる焦点を持っており、OCIのセキュリティ哲学に合致するのはBのみです。

Oracle Cloud Infrastructureのセキュリティに関するドキュメント、「ゼロトラストアーキテクチャ」。

質問: 54

Oracle Cloud Infrastructureのデータサイエンス職を最もよく表しているのは、次のうちどれですか？

- A. ジョブを使用すると、完全に管理されたインフラストラクチャ上で、繰り返し実行可能なタスクを定義して実行できます。
- B. ジョブを使用すると、顧客が管理するインフラストラクチャ上で、繰り返し実行可能なタスクを定義して実行できます。
- C. ジョブを使用すると、完全に管理されたサードパーティのクラウドインフラストラクチャ上で、繰り返し実行可能なタスクを定義して実行できます。
- D. ジョブを使用すると、すべての Oracle Cloud DevOps ワークロードを定義して実行できます。

正解: [\(正解を表示します\)](#)

詳細な回答（段階的な解決策）：

* OCIデータサイエンスジョブについて理解する :このサービスは、設定可能で繰り返し実行可能なMLタスク（トレーニング、評価など）を自動化します。

* 主な特徴: ジョブは OCI のインフラストラクチャ上で実行され、顧客や第三者ではなく Oracle によって管理され、一般的な DevOps ではなくデータサイエンスに特化しています。

* オプションを評価する：

* A: Correct-Jobsはユーザーによって定義され（例えばスクリプトを介して）、OCIの完全管理型コンピューティングリソース上で実行されます。

* B: 誤りです。インフラストラクチャは顧客ではなく、OCIによって管理されます。

* C: 誤りです。サードパーティのクラウド統合はできません。OCI固有のものです。

* D: 不適切 - ジョブはデータサイエンスタスク (ML トレーニングなど) 用であり、すべての DevOps ワークロード (e.

例えば、CI/CDパイプラインなど)。

* 理由: 「フルマネージド」とは、OCI がプロビジョニングとスケーリングを処理することを意味し、A と一致します。

* 結論 :Aはサービスの目的と運用を正確に反映している。

OCIデータサイエンスジョブは、「ユーザーがモデルトレーニングやバッチ処理などの反復可能な機械学習タスクを、完全に管理されたOCIインフラストラクチャ上で定義および実行できるようにする」ものです。これにより、顧客管理 (B)、サードパーティクラウド (C)、または広範なDevOpsの範囲 (D)が不要になります。ドキュメントではOCIによる自動化と管理が強調されているため、Aが最も正確な説明と言えます。

Oracle Cloud Infrastructureデータサイエンスのドキュメント、「ジョブの概要」セクション。

質問: 55

これらのうち、顧客が暗号化アルゴリズムと鍵管理に関するセキュリティおよびコンプライアンス要件を満たすことができるように、保存時および転送時の顧客データを保護するものはどれですか？

- A. セキュリティ管理
- B. 顧客隔離
- C. データ暗号化
- D. アイデンティティフェデレーション

正解: ([正解を表示します](#))

詳細な回答（段階的な解決策）：

- * 目的：顧客が管理できる保存データ／転送データの保護方法を特定する。
- * オプションを評価する：
- * A: 制御範囲は広く、暗号化に特化したものではありません。
- * B: 隔離 - テナントを分離し、暗号通貨に特化していません。
- * C: 暗号化 - データを保護し、鍵管理を可能にします - 正しい。
- * D: フェデレーション認証の共有であり、データ保護ではありません。
- * 理由: C言語は暗号化制御機能（例Vaultキー）を提供します。

結論 :Cが正解です。

OCIのドキュメントには、「データ暗号化 (C)は、保存時および転送時のデータを保護し、OCI Vault内の顧客管理キーがコンプライアンス要件を満たします」と記載されています。AとBはより広範で、Dは無関係です。OCIのセキュリティモデルでは、Cのみが該当します。

Oracle Cloud Infrastructureのセキュリティドキュメント、「データ暗号化」。

質問: 56

機械学習のライフサイクルに含まれない活動はどれですか？

- A. データベース管理
- B. モデル展開
- C. モデリング
- D. データアクセス

正解: ([正解を表示します](#))

詳細な回答（段階的な解決策）：

- * 目的：機械学習ライフサイクルに含まれないアクティビティを特定する。
- * 機械学習ライフサイクルを定義する :データアクセス、準備、モデリング、評価、デプロイ、および監視が含まれます。
- * オプションを評価する：
- * A: データベース管理（例DBAタスク）はIT関連であり、MLワークフローに特有のものではありません。
- * B: モデルの展開（予測の提供など）は重要な機械学習フェーズであり、正しく含まれています。

- * C: モデリング (トレーニングなど)は機械学習の中核であり、正しく含まれています。
- * D: データアクセス (データの取得など)は、MLの最初のステップとして正しく含まれています。
- * 理由 :データベース管理はインフラストラクチャをサポートするものであり、機械学習プロセスを直接サポートするものではありません。

結論 :Aは外れ値である。

OCIデータサイエンスのライフサイクルには、ドキュメントにあるように「データアクセス、探索、特徴量エンジニアリング、モデリング、デプロイ、および監視」が含まれます。

データベース管理 (A)は、一般的なITタスク (Oracle DBの最適化など)であり、B、C、Dとは異なり、機械学習に特化したアクティビティではありません。B、C、DはOCIの機械学習パイプラインに不可欠な要素です。

Oracle Cloud Infrastructure データサイエンスに関するドキュメント、「機械学習ライフサイクルの概要」。

質問: 57

公開されているconda環境について、正しい記述は次のうちどれですか？ (2つ選択)

- A. これらはOracle Cloud Infrastructure (OCI) データサイエンスによってキュレーションされています
- B. `odsc conda init` コマンドは、公開された conda 環境の場所を設定するために使用されます。
- C. ノートブックセッションは、公開されたconda環境をチームメンバーと共有するためのソースとして機能します。
- D. データサイエンスのconda環境を変更することによってのみ、公開されたconda環境を作成できます。
- E. サービスジョブ実行環境変数に加えて、conda環境変数もデータサイエンスジョブで使用できます。

正解: ([正解を表示します](#))

詳細な回答 (段階的な解決策) :

- * 目的: OCI で公開されている conda 環境に関する正しい記述を特定する。
- * 公開された Conda を理解する: オブジェクトストレージを介して共有されるカスタム環境。
- * オプションを評価する :
 - * A: 偽 - それらはOCIによってキュレーションされるのではなく、ユーザーが作成します。
 - * B: True-`odsc conda init` は公開された環境へのアクセスを設定します。
 - * C: 偽オブジェクトストレージがソースであり、ノートブックではありません。
 - * D: 偽 - 修正だけでなく、ゼロから作成できます。
 - * E: True-Conda環境変数はジョブ設定を拡張します。
- * 理由 :Bはアクセスを構成し、EはOCIの動作の柔軟性と一致性を向上させます。

結論 :BとEが正解です。

OCI のドキュメントには、「bdsc conda init (B) は公開された conda 環境用にバケットを構成し、ジョブはサービス変数と併せて conda 環境変数 (E) を使用できます」と記載されています。A はキューレーションの属性を誤っており、C はソースを誤って配置しており、D は作成のみに制限されています。B と E は OCI の conda 管理によれば正しいです。

Oracle Cloud Infrastructure データサイエンスのドキュメント、「公開された Conda 環境」。

質問: 58

6か月前、あなたはコールセンターの顧客離脱を予測するモデルを作成し、展開しました。当初は質の高い予測結果が得られていましたが、ここ2か月ほどで、ユーザーから予測の信頼性について疑問の声が上がっています。モデルの精度を検証するために、どのような2つの方法を用いますか？

- A. モデルを再学習する
- B. 最新データを用いてモデルを検証する
- C. ドリフト監視
- D. モデルを再デプロイする
- E. 運用監視

正解: A,C ([コメントを发表する](#))

詳細な回答（段階的な解決策）：

- * 目的：予測精度の低下に対処し、モデルのパフォーマンスを検証する。
- * 問題の分析：時間の経過に伴う劣化は、データドリフトまたはモデルの陳腐化を示唆しており、これは一般的な機械学習の問題です。
- * オプションを評価する：
 - * A. モデルを再トレーニングします: 新しいデータを使用してモデルを更新し、精度を修正します。
 - * B. 最新データで検証する: パフォーマンスをテストしますが、修正は行いません。診断のみです。
 - * C. ドリフト監視: データ分布のずれを検出し、原因を検証し、修正します。
 - * D. モデルを再デプロイする: デプロイを繰り返すだけで、根本原因には対処しません。
 - * E. 運用監視: 予測精度ではなく、インフラストラクチャ (例: 遅延) を追跡します。
- * 推論: C はドリフト (精度が低下した理由) を特定し、A は検証と改善のためにその最適なペアを修正します。

結論 :AとCが正解です。

OCI のドキュメントには、「ドリフト監視 (C) は精度に影響を与えるデータ分布の変化を検出し、新しいデータを使用した再トレーニング (A) はモデルのパフォーマンスを回復します」と記載されています。検証 (B) はチェックはしますが修正は行わず、再デプロイ (D) は冗長であり、運用監視 (E) はインフラストラクチャのみに焦点を当てています。A と C は OCI のモデル保守戦略と一致しています。

Oracle Cloud Infrastructure データサイエンスのドキュメント、「モデルの監視と再トレーニング」。

質問: 59

データサイエンスチーム向けに、さまざまなプロジェクトのコレクションを作成する Python スクリプトを作成したいとします。その場合、どの Oracle Cloud Infrastructure (OCI) データサイエンスインターフェースを使用しますか？

- A. OCI ソフトウェア開発キット (SDK)
- B. OCI コンソール
- C. コマンドラインインターフェース (CLI)
- D. モバイルアプリ

正解: A ([コメントを発表する](#))

詳細な回答（段階的な解決策）：

- * 目的 : プロジェクトを管理するための Python スクリプトのインターフェースを選択する。
- * オプションを評価する：
- * A: OCI SDK - Python ベース、スクリプト対応、正しい。
- * B: コンソール GUI、スクリプト不可。
- * C: CLI コマンドベースであり、Python ネイティブではありません。
- * D: モバイルアプリ - スクリプト作成には適していません。
- * 理由 : A はプログラムによるプロジェクト作成を可能にする。

結論 : A が正解です。

OCI のドキュメントには、OCI Python SDK (A) を使用して、Python スクリプトを介してプロジェクトの作成など、データサイエンスリソースをプログラムで管理します。」と記載されています。B、C、D は Python スクリプトをサポートしていないため、A のみが該当します。

Oracle Cloud Infrastructure SDK ドキュメント、データサイエンス API」。

有効的な **1z0-1110-25** 問題集は JPNTTest.com 提供され、**1z0-1110-25** 試験に合格することに役に立ちます！JPNTTest.com は今最新 **1z0-1110-25** 試験問題集を提供します。JPNTTest.com 1z0-1110-25 試験問題集はもう更新されました。ここで **1z0-1110-25** 問題集のテストエンジンを手に入れます。最新版のアクセス、<https://www.jpntest.com/shiken/1z0-1110-25-mondaishu> **160**問、**30%**ディスカウント、特別な割引コード: **JPNshiken**」